

Wild Hunt New Era 2

Beyond Space-time

Kiyohiko Yashima



目次

知られざる宇宙の彼方へ	1
遙かなる時空を越えた旅路	8
汚れた報酬と復讐の行方	13
ローガン大統領の救出作戦	18
迷える宇宙の扉から帰還	26

知られざる宇宙の彼方へ

リチャード・ルノーは FBI の SWAT チームに加入したのちにチャイナタウンで過激派の中国人テロが起きて SAWT 異種格闘技大会トーナメント終了後に出動命令を受けて航空機に乗り込んだ特殊部隊 SWAT はアトランタのドビズ空軍基地からサンフランシスコ軍事基地にたどり着いた。中国人テロ集団はチャイナタウンで警官隊と紛争を続けていたが、ハン率いるテロ集団とウォン率いるテロ集団に分かれていった。ウォン率いるテロ集団はアメリカにいる中国人の人種差別のない内容文書を押収さえるためにサンフランシスコシティの超高層ビルや市営鉄道やバスの中に入って市民を人質に立てこもっていた。SWAT チームはテロ集団にハイジャックされた市営鉄道やバスに乗り込んでアサルトライフルでテロ集団を撃って行って、人質を解放した。超高層ビルに突入した SWAT チームは上と下の階に別れてライリー・クーガー隊長班のリチャードとロバート・ロドリゲスとレイモンド・チョウとエリザベス・チュウの 5 人は最上級へ上がっていった。チョウとチュウはカンフーとアサルトライフルでテロ集団を撃って行って、社長室にいた人質を解放させた。リチャードはマーシャル・アーツトレーニングパートナーのロバートと一緒に集会所に突入するとウォンが現れてリチャードとロバートのアサルトライフルを奪って格闘した。リチャードは気絶をして目を覚まして、ウォンの八卦掌（はっけしょう）で口から血を吐いて倒れてるロバートを見て怒り狂いマーシャル・アーツの猛攻撃でウォンを倒して、ロバートの仇を取った。リチャードはロバートのところに行くと、ロバートが、「来年の SWAT 異種格闘技大会はおまえが優勝しろ！」と言って目を閉じた。リチャードのところをクーガー隊長が駆け付けて、「超高層ビルにプラスチック混合爆弾が仕掛けられてるから、下に避難しろ！」と言って、ロバートを置いてチョウとチュウと一緒に非常階段で下された。クーガー隊長は OL 女性を非難させて中階まで来て、レスキュー隊と合流したときに大爆発してクーガー隊長と OL 女性とレスキュー隊は犠牲となった。ハン率いるテロ集団はトラックに乗ってカリフォルニアのサンディエゴ海軍基地にたどり着いて、基地へ乗り込んで行って、テロ集団が米軍に撃たれていく中で中国人パイロットが戦闘機と輸送機を奪って米軍に攻撃していった。ハン率いるテロ集団の乗る輸送機と中国人パイロットが乗る戦闘機は、ワシントン D.C. へ向かっていった。米軍基地の戦闘機を出動させて戦闘機を奪ったテロ集団を追っていった。SAWT チームは航空機に乗ってワシントン D.C. へ向かっていった。中国人パイロットの乗る戦闘機は戦闘機と陸から発射台誘導ミサイルでワシントン D.C. にたどり着くまで抑えられたはずの輸送機が降り立った。テロ集団は内部省 BIA 本部ビルに立

てもって政府職員を人質した。ハンは政府職員を脅して内部文書を奪って国会議事堂の中へ内部文書を持っていこうとしたらリチャードとチョウとチュウが待ち構えていた。リチャードとチョウとチュウは中国雑技団の変面を被るハンと格闘した。リチャードはマーシャル・アーツで攻撃したが、ハンの鷹爪拳で倒された。チュウは蛇鶴八歩で攻撃したがハンの鷹爪拳で倒された。チョウは必殺虎拳で攻撃してハンの攻撃をかわして変面が割れた。ハンの正体はチョウのよく知るサンフランシスコ市長のジョーンズ・リーだった。チョウはハンの鷹爪を避けて攻撃していった。ハンは口から血しぶきあげて倒れた。リチャードとチョウは肩を支えあって、チョウのところにやってきた。チョウとチュウは自分たちの州へ戻っていった。リチャードは某アナウンサーのルーシー・ライアンと運命的な出会いをして交際するようになって2年後にSWATを離れることにした。リチャードはあれから2年の月日が経ってSWATを退任してルーシーと一緒にロス郊外に引越した。ロス郊外の家に住むリチャードは、マーシャルアーツ道場を設立して生計を立てて1年後にルーシーとの間に息子のスティーブン・ルノーが誕生した。20年後、青年となった両親の反対を押し切って宇宙飛行士に憧れてNASA エアナショナルハイスクール宇宙工学科パイロット育成コースを優秀な成績で卒業してNASAの宇宙飛行士として契約書にサインした。スティーブンは研修生で知り合った仲間のブライアン・ハンサカーとジム・ハートリーとリリー・ヘイグルで何者かに火星探査機を破壊されたことでスペースシャトルにユースの4人を乗せて火星へと旅立った。ユース4は火星にたどり着いた。ユース4は火星探査機が破壊された地点へ歩いていった途中でNASA火星基地に着いて、レーザーガンを受け取って探査車を走らせて地点へ向けていった。ユース4は地点に着いて、火星探査機を調査していたときにクモ型の火星寄生虫ジークの4匹がユース4に襲いかかってきて、レーザーガンで撃っていった。ユース4はジークの3匹を仕留めたが、残る1匹がブライアンの宇宙服のメットを突き破って、口と鼻を塞いで窒息させて倒れたら口の中へ入っていった。ブライアンは立ち上がって、目を赤くしてユースの3人に襲いかかっていった。ユース3はやむをえずにブライアンをレーザーガンで撃って抑えた。倒れたブライアンは、腹から宇宙服を突き破ってジーク1匹が出ていった。ユース3は探査車で火星スペースコロニーへ向けて、走行中に宇宙船から現れた宇宙飛行隊に攻撃を受けて突っ走って、クレーターに飛び込んでいった。ユース3は宇宙飛行隊の攻撃をなんとか避けたが、クレーターが湖と知らずに飛び込んで探査車は湖の底へ沈んでいった。火星スペースコロニーのマーズタウンよって栄えた火星水道局に湖を発見したことを報告した。ユース3は火星スペースコロニーから出て、スペースシャトルに乗り込んだ。ブライアンは凄い音がして確かめにシャトルから出て確かめて見たら宇宙飛行隊が火星スペースコロニーを攻撃していた。ブライアンはシャトルの扉を開ける間にジーク3匹紛れ込んでいる知らずシャトルに戻って地球に向けてシャトルを発射させた。ユース3はサンディエゴ空軍基地に着いた。ヒューストン競技場に降り立った宇宙船からNASAのブラウン局長にパピュラス星人のピトゴラス卿と名乗る異星人が大型モニターを使って資源の提供を交換しないと現れた。それを反論したブラウン局長に最終宣告を無視したと宇宙船から宇宙飛行隊を出動させて、LAの街が壊滅状態なるまで攻撃していった。NASAは衛星ミサイルで宇宙飛行隊を撃って撃墜していった。シャトルの整備士の3人はジークの3匹が寄生して目を赤くした感染者となった

て局員に口から口へと移して感染させていった。感染者たちは NASA の外に出て、街の人々にジークを寄生させていった。ジークの感染者を目の赤いヒューマンレッドアイズ (HRE) と呼ばれるようになった。HRE を抑えようと戦うジークバスターズという集団が現れて火炎放射器で HRE を火炙りしていった。車で宇宙船に着いたユース 3 は、宇宙船の入口を探していたら、「ここで何をしてる！」と言って現れたパピュラス星人の男子ピューゴがジムを背後から長い爪で突き刺した。スティーブンとリリーは倒れたジムの仇をとるためにピューゴをレーザーガンで撃っていった。パピュラス星人のピューゴの母のゼジルが現れてスティーブンに、「宇宙船にいるピューナを助けてやってほしい」と言って扉に位置に近づけると光る青いサファイアを渡してきた。宇宙船に入ったスティーブンとリリーはパピュラス星人が宇宙輸送機に乗ってロスの街へ向かっていったために姿がなかった。スティーブンとリリーはピト卿と遭遇したときにリリーが捕らわれた。スティーブンは近くにやってきたピューナを捕えてピューナの首にナイフを突きつけた。スティーブンはピト卿の背後にリチャードが隠れているのを見て、ピト卿の頭にガトリング銃を向けて構えていた。リチャードは合図を送ってリチャードとピューナとリリーが床に伏せたときにピト卿の脳天をガトリング銃で撃って倒した。スティーブンたちは宇宙船のコアエナジーに時限爆弾を仕掛けた。スティーブンとリチャードとリリーとピューナは宇宙船から外に出て車に乗ってロスの街まで走っていった。宇宙船は 15 分後に大爆発した。スティーブンとリチャードはリリーとピューナを安全な場所に降ろしてロスにたどり着いた。スティーブンとリチャードはパピュラス星人にレーザーガンを持ってジークバスターズと手を組んで戦った。スティーブンはパピュラス星人のレーザー光線銃を奪って攻撃していった、ジークバスターズは火炎放射器で攻撃していった、パピュラス星人を殲滅した。アラスカの南西で救助隊が発見したラテン人の男性一人を病院へ運び、輪を持った不思議な物体は警察に引き渡した。警察は宇宙から落ちたハレー彗星か何かだと判断して NASA アメリカの航空宇宙局に連絡してエイムズ研究センターに持ちこ込まれた円形型をした不思議な物体を調査させた。科学者のギルバート博士によると、物体ほとんどが鉄で出来た隕石と同じ地球外物質であると判明した。ギルバート博士は検査していくと、時空を行き来するタイムマシンであると判明して時空転送の門と三次元装置であるとみた。20 年後にて、20 年前より年とったギルバート博士は、エイムズ研究センターに長い間で保管されていた時空転送の門と三次元装置を装置を起動させるのにあらゆる実験をしていったが、ある日に夜でしか動かすことのないエイムズ研究センターで望遠鏡のある天文台の天井のシャッターを全開に開いたときに、太陽の光に反応したことで強い太陽エネルギー源が必要だと解った。ギルバート博士は三次元装置が作動を始めたら漢数字で一八七〇と二〇一六と点滅してることから年号と解って、過去にラテン人がアラスカで時空転送の門の前で倒れていた。恐らく日本の時期で言えば明治初期から平成後期にやってきたことになる。ではなぜ日本でなくアラスカに転送されたのだらうと思って、三次元装置の中を調べてみた。三次元装置は鉄の塊で破壊して開いて見ることは衝撃を与えては壊れてしまうのでできなかった。傾けてみたときに三次元装置の隙間から水が漏れてきたので三次元装置に何かの原因で水が入って、水を抜いてみて完全に水が抜け切れずに感電ショートして場所が特定できず別の場所にたどり着いたことが解った。ギルバート博士は 20 年賭けた成果と人

生の最後に三次元装置を色々探って、年号設定の仕方などを知り得た。ギルバート博士は NASA 本社で実験台になる人材を求めて挑んだ。二十歳になったスティーブンはワシントン D.C. の NASA からいった過去か未来に行って、戻ってこれるか保証のない時空転送の門をくぐることができる志願者を求めた知らせを聞いた。スティーブンは隕石と同じ物質で出来た時空転送の門は宇宙の彼方へと通じるかもしれないと思った。スティーブンは志願者 5 名のうちの一人としてエイムズ研究センターにいるギルバート博士さんを訪ねた。スティーブンはギルバート博士に、「志願した宇宙飛行士のスティーブんです！ 時空転送の門が隕石と同じ物質で出来てる」と言った。宇宙人が作った物体だと思いました。三次元装置の年号が漢数字であることで日本から来たと解って日本で何が起きていたか知らないんですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「ここ数年ほど研究センターにこもって世の中のことがわからなくなっていた」と答えた。スティーブンは、「モンスターが街を襲ってたのです。そのときも宇宙人が作ったとされる時空転送の門をくぐって時空を越えてやってきたでしょう！」と聞いた。ギルバート博士は、「日本はどうなっていたかね？」と聞いた。スティーブンは、「モンスターを追って時空転送の門をくぐってきた忍者たちが倒した」と答えた。ギルバート博士は、「忍者！ 実は三次元装置にドリルで穴をほじあけて胃カメラとして使う内視鏡で検査した。宇宙を構成してるレプトンに分類される電子より強力な素粒子で低温になればガラス状態となって固体化してしまう。なので電子回路の一部が遮断されていたのだ！ 私は研究センターの天井のシャッターを開いて太陽エネルギー源を用いて再生可能なエネルギーに分類されるソーラーパワーの役割をした時空転送の門から三次元装置に送られて高温になったら、ガラス状態は溶けていって、液状化した。そしてロータリー式で三次元トライアングルが起動すると、時空転送の門をくぐれるようになる。しかし何かの理由で太陽光エネルギー源あっても三次元トライアングルが起動しなかったら元の場所と時間へ戻ってこれなくなる。宇宙人の作り出した物体は地球上にない物質で出来てる。今の技術では難しい。それでもいいのか？」と聞いた。スティーブンは、「はい！ 宇宙人が作った物だからどこかに宇宙へ通じる線があると思うんです！ 俺の夢は同じような銀河系が沢山あって地球に似た惑星があるということをこの目で確かめたいんです！ 俺に行かしてください！ 必ず戻ってきます！」と答えた。ギルバート博士は、「責任は持てないが宇宙に通じたなら四次元だな！ 三次元トライアングルになんらかの異変か故障しかない。宇宙で惑星にたどり着いたら宇宙人に修理してもらわないと戻ってこれんだろう」と言った。スティーブンは、「大丈夫！ 宇宙人にどうにかしてもらいます！」と聞いた。ギルバート博士は、「そんな簡単なことではない！ だがわかった！ では過去か未来かどちらに行きたいかね？」と聞いた。スティーブンは、「どちらも行きたいですが、その前に LA 郊外にいる両親に会ってきます！ どちらに行くかは戻ってくるまでに決めます！」と答えた。ギルバート博士は、「いつでもいいぞ！ 準備ができれば、またここにきてくれ！」と聞いた。スティーブンは局長から明日から特別休暇を許可してもらって NASA の宿舎に戻り、シャワーを浴びてベッドで休んだ。翌朝に目覚めたスティーブンはサンドウィッチとハッシュポテトを食べてオレンジジュースを飲んで着替えて宿舎を後にした。タクシーに乗ってワシントンダレス国際空港まで行って、飛行機でロサンゼルス国際空港に向った。ロサンゼルス国際空港にたどり着いてタクシーで LA 校外にある実家に向って

いった。スティーブンは実家ルノー家に着いて家の扉を開いたら43歳の母ルーシーが迎えて後で16歳の妹キャメロンが迎えた。スティーブンはルーシーに、「父さんはどこにいる？」と聞いた。ルーシーは、「マーシャルアーツ道場にいる！いつものことだから夕方頃に帰ってくるでしょうね！」と答えた。スティーブンは、「そうか！」と言ってリビングにあるソファに座ると、キャメロンもソファに座った。スティーブンはキャメロンに、「大きくなったなあ」と言った。キャメロンは、「私はパピュラス星人だから成長が早い！ だけど近くの高校を通ってる女子高生！」とやった。スティーブンは、「女子高生か！ 成長が早いなら大人になってからは年とるのが早いんじゃない？」と聞いた。うなづくキャメロンは、「どうにもならないよ！」と答えた。スティーブンは、「1年で5歳も年をとるなんて、地球にいるからか大変だ！」とやった。ルーシーは、「パピュラス星人に取り残されていく当てもないこの子を人間のようで顔とスタイルをして地球人とあんまり変わらないからってリチャードが養子にとったんだけどスティーブンはNASA 本局に1年も経った間にどんどん成長するからびっくりして！」とやった。スティーブンたちは話をしている間に夕暮れどきがやってくると、スティーブンとキャメロンの55歳の父リチャードが帰ってきた。リチャードはスティーブンに、「ようこそルノー邸に！ ワシントン D.C. のほうはどうだ？」と聞いた。スティーブンは、「こんなおんぼろ家なんかルノー邸じゃない。ワシントン D.C. はアメリカの首都だけにテロとか起きないかと心配なところある。だけどリンカーン記念堂の近くは穏やかで過去にテロがあったらしいけどテロ対策万全で問題ない」と言った。ソファに座るリチャードは、「そうか俺は23年前にFBIのSWATだった頃に、SWAT 格闘技トーナメントの試合が終わった直後に緊急事態が発生して、俺たちは輸送機に乗ってロスのチャイナタウンへ向かっていった。中国人のテロ集団に立ち向かって行って、人質を持ってビルに立てこもったテロ集団と海軍基地に忍び込んで戦闘機を乗っ取ったテロ集団と別れて動き出した。やつら中国人の人種差別問題に対して法律を改正した内部文書を提出させるように交渉した。俺たちはビルの人質救助とテロ集団を抑えることに専念して、テロ集団を抑えて人質を助け出したはずだったが、ビルの爆破によってビルに残った人と救命士とSWATの数名が犠牲者となった！ 残った俺たちはワシントン D.C. へ向かっていったテロ集団を追ってワシントン D.C. へ向った。リンカーン記念塔に接触した戦闘機が墜落していた。リンカーン記念堂のリンカーン像の頭がミサイル弾で爆撃された近くでテロ集団と戦った！」とやった。スティーブンは、「へー！ そんなことがあったなんて一度も教えてくれなかったんだ？」と聞いた。リチャードは、「おまえに悪影響を与えては困ると思ってな！ マーシャルアーツ道場の後を継いでほしかったし危険な真似などはしてほしくなかった！ 宇宙飛行士になったがために宇宙人なんかと戦うことになっただろう」と答えた。スティーブンは、「そうか！ それよりもヒューマンレッドアイのすべてを消滅させた？」と聞いた。リチャードは、「まだいるらしいんだ！ おまえの乗ったスペースシャトルがサンディエゴ空軍基地に無事着陸した後で、NASAの施設のエドワード空軍基地に輸送されてエンジニアが点検中にシャトルに潜んでいたジークに襲われて感染していったようだ！ HRE ウィルス感染者らは次第にカルフォルニア州を全域に広まってきてる。いざという時のためにガトリング銃を持ち歩いている」と答えた。スティーブンは、「この辺では安心してられない」と言った。リチャードは、「そう！ さっきの話の続きだが、中国人のテ

ロ集団を抑えた後でルーシー母さんと出会って、2年の交際が続いて結婚して1年後におまえが生まれた。その2年の間で、またテロ事件が起きた。そのときに命を救ってくれたアレックス・ウッドというSWAT隊員がいて、今のおまえに似てるんだ！」と言った。スティーブンは、「自分に似てるなんて！ そのアレックスさんに会ってみたいな？」と聞いた。リチャードは、「もう会えないんだ！ 殉職したらしい！ その辺の経緯は何かあったか知らない！」と答えた。キャメロンはリチャードに、「ねえスティーブン兄さん！ おもしろいゲームがあるからやろうよ！ これっ！ おもしろいんだ！」と言った。リチャードはキャメロンに、「こらこらっピューナ！ 兄さんが帰ってきたからってわがままばかりいうなよ！」と言った。キャメロンは、「もうね！ ピューナじゃない。私はキャメロンよ！ パピュラス星人じゃない。けど爬虫類みたいな肌は隠しきれないんだよ！」と言って自分の部屋に入っていった。ルーシーは、「夕飯の用意できた！ スティーブン！ キャメロンを呼んで」と言った。スティーブンは、「よっ！」と言ってキャメロンの部屋に入った。スティーブンはキャメロンに、「さっきのテレビゲームを一緒にやってやるから、夕飯の用意ができたから食事を済ましてからにしよう」と言った。キャメロンは、「今は食欲ないんだよね！」と言った。スティーブンは、「まだ地球人になり切れないことを悩んでるの？ 大丈夫だって！ 俺がなんとかしてやるって！ だからキャメロンこい！」と聞いた。キャメロンは、「本当に！ わかった！ ならいくよ！」と言って自分の部屋から出て来た。みんな食卓に揃って、会話をしながらマカロニグラタンとパスタなど食べてハーブティーを飲んだ。スティーブンはリチャードに、「俺はNASAのエイムズ研究センターでギルバート博士が、永年の実験で解放された時空転送の門をくぐることに決めたんだ！」と言った。リチャードは、「なんだそれ！ 宇宙の彼方へでも行くのか？」と聞いた。スティーブンは、「タイムトラベルして過去か未来に行けるものだ！ だけど宇宙に行けるルートがあるのかも知れないと思ってる」と答えた。リチャードは、「そうなのか！ ちゃんともとに場所と時間に戻ってこれるのか？」と聞いた。スティーブンは、「それが保証がなくて実験台となる身なんで戻ってこれるかわからない」と答えた。リチャードは、「危なかしい真似はやめておけ！」と言った。スティーブンは、「わかったよ！。遠い宇宙の銀河系の彼方へ地球と同じ惑星があるこ証明したいんだ！」と言った。リチャードは、「よしっ分かった！ 一度しかない人生！ いってこい！」と言った。スティーブンは、「どうも！ もう覚悟は決めたよ！ 明日また家を出る。あさって時空転送の門をくぐるつもりだよ！」と言った。キャメロンはスティーブンに、「えっ！ スティーブン兄さんどこか遠い時代にいっちゃうの心配だな！ 戻ってこれなくなるんじゃないの？」と聞いた。スティーブンは、「大丈夫だ！ 宇宙の彼方へ行って、キャメロンを地球人と同じような体質にできる薬をもらってくるから！ みんな夕飯が終わったのでゲームしよう！」と言った。キャメロンは、「わかった！ 楽しみにしとくね！」と言った。スティーブンはキャメロンとゲームを終わらすとシャワーを浴びて自分の部屋に戻ってベッドの上に横になって、いつの間にか眠っていた。最後になるかわからない家族との一夜を過ごした。翌朝を目覚めたスティーブンは、ルーシーが朝飯を準備した食卓で朝飯を食べながらいると、みんな起きてきて、食卓に着いた。スティーブンはキャメロンに、「キャメロン！ おまえの実のお母さんであるゼジルは生きてるのかな？」と聞いた。キャメロンは、「どうしたことかゼジルは宇宙船ヰイスターが大爆発したときに

倒れていた義理の弟のピューゴの側にいて、爆風に巻きこまれたかもしれない」と答えた。スティーブンは、「あのときはごめん！俺たちユースメンバーの一人だったジムがおまえの弟に遣られて撃つしかなかったんだ！」と言った。キャメロンは、「理解してるよ！」と言った。スティーブンは、「ゼジルは『ツイスターにいるピューナを助けてやってくれ！』と言っていた」と言って朝飯を食べてすぐにお出かけ準備をした。キャメロンはスティーブんに、「葉のお土産を待ってるから」と言った。リチャードはスティーブんに、「ちゃんと無事に戻ってこいよ！」と言った。ルーシーはスティーブんに、「どこかで昼飯はちゃんと食べなさい！」と言った。スティーブンは、「戻ってきたら、必ず顔を見せて帰ってくるよ！」と言ってルノー家を後にした。タクシーに乗ったスティーブンは空港までの途中で宇宙飛行士としてユースメンバーだったリリーを思い出した。スティーブンはヒューストン宇宙センター訓練生でいた頃に19か二十歳の若さで宇宙飛行士に選ばれた初のユースチームなんだと胸の奥で思った。スティーブンは宇宙飛行士になるに経験を積んで若くして26歳からだけど優秀と見なされてなった功績など偉大だったと思う。スティーブンはモバイルフォンでリリーに電話をかけた。リリーは電話を受けた。スティーブンはリリーに、「久しぶり！スティーブんだ！元気だった？」と聞いた。リリーは、「元気よ！スティーブンは元気？」と答えた。スティーブンは、「俺も元気だよ！今ワシントンD.C.にある本局で天体物理学者による講義を受けてる。なんでか宇宙飛行士としての仕事はないんだ！そっちは？」と聞いた。リリーは、「私は今だにヒューストンのリンドン・B・ジョンソン宇宙センター訓練生としてやってるけど、いつか宇宙開発エンジニアのほうで宇宙開発技術者になろうとして頑張ってる」と答えた。スティーブンは、「いいですね！思い出したけど火星にいたときに俺たちが急いでシャトルに乗り込もうとしたら、ブライアンがジークに寄生されてHREになってしまったときに襲いかかるブライアンをあえなく撃ったけど、そのジークが俺たちが乗って帰還したシャトルに潜んでいたらしくて点検中にエンジニアに寄生したそうだし、そこから人々に寄生していった感染者HREはカルフォルニアの全域に広がってるらしい」と言った。リリーは、「ヒューストンまでは来てないけど、ヒューストンの降り立ったツイスターにジークは生き残ってない！ツイスターは大爆発して粉々になったから」と言った。スティーブンは、「それで競技場の修復はどうなってる？」と聞いた。リリーは、「もう片付いてる。後は修復を待つだけ」と答えた。「お互いブライアンとジムのぶんまで頑張ろうぜ！」と言った。リリーは、「同い年なんで頑張らましょ！」と言った。スティーブンは、「じゃあまた！」と言って電話を切って空港に着いた。

遥かなる時空を越えた旅路

スティーブンはロサンゼルス国際空港からワシントンダレス国際空港にたどり着いた。スティーブンは昼飯を摂ってなかったから、空港内のハンバーガーレストランでパインを挟んだビーフバーガーとフライドポテトを食べて、パパイヤジュースとグァバジュースを飲んだ。スティーブンは昼飯を済ましたら、タクシーに乗ってワシントン D.C. にある NASA の宿舎へ向った。NASA の宿舎に着いたスティーブンは自分の号室に戻ってベッドの上で休まっていたら、そのまま眠っていた。スティーブンは夜の 10 時に目が覚めて、シャワーを浴びてから冷蔵庫に冷やしていた冷たい水を飲んだ。ソーセージホットドックにケチャップとマスタードをかけて食べて冷たいレモンティーを飲んだ。スティーブンはテレビを付けてボックス・バニーのアニメが終わるとチャンネルを替えてニュース番組にした。TV アナウンサーは、「こんばんは！ 生中継でお届けいたしております。レポーターのケニー・ロペスです。カルフォルニア州北部で HRE ウィルス感染者が多発して、直径 2.5 センチのクモ型の火星寄生のジークがさまよって人々に寄生して感染をもたらした目の赤い HRE をジークバスターズが火炎放射器を使って大半の HRE を減らしていった模様であります」と伝えた。スティーブンは、「LA 郊外のほうにまでまだきてないようだ！」と言ってテレビを消してから少し安心をするとそのままソファで二度寝した。朝起きたスティーブンは朝食でパンとスクランブルエッグとローストチキンとスウィートコーンを食べて水を飲んだ。しばらくしてスティーブンは晴天青空の太陽の昇る真昼どきに合わせようとエイムズ研究センターへ向かった。スティーブンはエイムズ研究センターに着いて、望遠鏡のある天文台の近くで宇宙物質を研究するギルバート博士と会った。スティーブンはギルバート博士に、「こんにちはギルバートさん 約束の時が来ました」と言った。ギルバート博士は、「準備はいいかね？」と聞いた。スティーブンは、「心の準備はできてます！ いつでもいきましょう」と答えた。ギルバート博士は、「では過去か未来かどっちに行くんだね？」と聞いた。スティーブンは、「過去ですよ！ あるテロ事件で父さんを助けたアレックス・ウッドという人物に会ってみたいんだよ！」と答えた。ギルバート博士は、「危なかしい！ そんな紛争の起きた場所に行ったら命の保証はないぞ！ それと時空転送の門をくぐってきたミラージュというラテン人でアラスカで下働きをしながら故郷のブラジルに帰ったと聞いたのだが、消息不明で訪ねても時空転送の門について聞くことができない。なのでその後の体の具合など知ることもできない。すでにこの世にいないかも知れない」と言った。スティーブンは、「問題ないかと思います」と言った。ギルバート博士は、「最後に説明しておくがタイムトラベルに向かう前にこのパネルを触れて行って、行きたい先の年号を設定するのだ！ そして 2035 年 4 月 3 日の 12 時 20 分と設定して戻ってくるんだよ！」と言った。スティー

ブンは、「わかりました」と言った。ギルバート博士は、「もう一つある。君が言っていた宇宙の彼方へ通じる線は不可能じゃない。理論物理学者のアルベルト・アインシュタインが考え出した一般相対性理論でブラックホールから繋がるワームホールというトンネルを通り抜けたホワイトホールまでのワームホールをアインシュタインローゼン橋という負のエネルギーと出会えれば宇宙の彼方にたどり着く。トンネルの中はエキゾチック物質により、通り抜けるまで寒さと重力で体が伸びてくるから重さ30キロの特殊な宇宙服を着る必要がある」と言った。スティーブンは、「それは大変だ！ ワームホールのことは天文学者から教わってる。どうすれば負のエネルギーに会えるようになるだろう？」と聞いた。ギルバート博士は、「暗黒エネルギーで口が開いてるのを見つけることさ！」と答えた。ギルバート博士は、「アインシュタイン方程式で宇宙は時空の塊のようなものであると考えている。スティーブンは、「ワームホールは宇宙の異なった時空連続体を短く遮断しているトンネルと聞いてます」と言った。ギルバート博士は、「なんともいうようだけでも数光年の彼方へ行って、どこへ行き着くかわからない。ここに帰ってこれるかわからない。それでも行くというのかね？」と聞いた。スティーブンは、「はい！」と答えた。ギルバート博士は天井のシャッターを開いて太陽の光が放った天文台の隅に設置した時空転送の門に太陽エネルギーを溜めて、三次元装置に年号日時を設定しようとした。ギルバート博士は、「それでは自分で年号と日時を設定したまえ！」と聞いた。スティーブンは2014年4月3日の12時20分に設定した。スティーブンは、「場所は設定できないのですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「残念だがたどり着いたら21年前のこの場所になる。若しの37歳の私がいるだろう！」と答えた。スティーブンは、「若し頃のギルバートさんは驚くだろうな」と言った。ギルバート博士は、「過去の私にワームホールは実在すると伝えてくれ」と言った。スティーブンは、「わかった！」と言って、宇宙服を着て、「それではいきます！」と聞いた。ギルバート博士は、「くれぐれもワームホールに出会ってしまったら慌てないようにしてくれ！」と聞いた。2014年4月3日の12時20分にエイムズ研究センターの天井のシャッターの閉まった天文台で稲妻が放電し始めて時空転送の門が現れた。ギルバート博士は天文台の近くで実験をしていて驚いて実験台テーブルの下に隠れていた。ギルバート博士は時空転送の門から人が現れるのが見えてテーブルの下から立ち上がってテーブルに置いてあったレーザー光線銃を手にして近づいてくる宇宙服を着た者にレーザー光線銃を向けて、「きさまは何者だ！」と聞いた。ヘルメットをはずしたスティーブンは、「俺はスティーブンという者です。2035年からやってきましたが、怪しい人じゃないですから！」と答えた。ギルバート博士は、「なんだって！ 未来からタイムトラベルしてきたというのか？」と聞いた。スティーブンは、「そうです！ 本来なら今から1年後に宇宙人が作った物と思われる時空転送の門がここに運ばれてくるはずですよ！ その後にギルバート博士は何年も実験をしても動かなくなった時空転送の門を起動させたんだ！」と答えた。レーザー光線銃を下ろしたギルバート博士は、「私の名前を知っているとは本当のようだな」と聞いた。スティーブンは、「はい！ ギルバート博士があ頃の私に会ったら、『ワームホールは実在すると伝えてくれ』と言ってました」と聞いた。ギルバート博士は、「そうか！ やはりタイムトラベルはアインシュタインが言っていた通り可能であるということは当たっていたか！」と聞いた。重さ30キロの宇宙服を脱いだスティーブ

ンは、「申し訳ないですけど、元の場所に戻る日が来るまで宇宙服を預かってもらえませんか？ それと時空転送の門と三次元装置を何かで隠して置いてくれませんか？」と聞いた。ギルバート博士は、「わかった！ このことは誰にも教えないでおく！ どこかに行くつもりか？」と答えた。スティーブンは、「父さんと母さんの挙式の1年前に父さんにどんなことがあったかを知りたい。若し頃の父さんのいるFBIの施設に行きます」と言った。ギルバート博士は、「ではしばらくの間は赤いドゥカティのスーパーバイク1199パニガールを貸してやる。新車だから転倒させないでくれよ！」と言ってスティーブんにバイクの鍵を投げた。バイクの鍵を受け取ったスティーブンは、「ありがとうございます」と言って天文台から出てエイムズ研究センターから外へ出ていった。スティーブンは赤いドゥカティのイタリアンバイクに乗ってヘルメットを被って鍵をひねってエンジンをふかした。スティーブンは赤いドゥカティに乗ってFBIの本部を目掛けて突っ走っていった。スティーブンは連邦捜査局のFBIの本部に着いてエンジンを止めてヘルメットをはずして赤いドゥカティから降りたあと、さすがに警察機関であるFBI本部に簡単に入ることなんてできなかった。そこで考えたスティーブンは、リチャード父さんと会うためにFBIのナショナルアカデミーを受験することにした。FBIの本部内に入ることを許可されたスティーブンは、受付でFBIアカデミーに志願した。赤いドゥカティに乗ったスティーブンはヴァージニア州のクワンティコにあるFBIアカデミーへ向かっていった。FBIアカデミーにたどり着いたスティーブンは、早くもFBIアカデミーの入学の手続きを済ました。スティーブンは明日の受験に備えて近くのホテルで休んだ。受験当日に目覚めたスティーブンはホテルから向かったFBIの本部のFBIアカデミーで受験をした。3日間結果を待っていたスティーブンは見事に合格した。スティーブンは父の身元確認書を未来で偽造しておいたお陰で、今日から寮生活しながら20週間の厳しい訓練に挑むことになった。初めて寮生活するスティーブンはNASAの宿舎なんかテレビも何もない狭い部屋で息苦しい夜を休んで朝起きた。訓練施設のFBIアカデミーで研修から始まって、全国から志願して集まったFBIアカデミー訓練生たち30人の前にジョン・クウォーク長官が現れた。クウォーク長官は、「私が訓練指導者である長官のジョン・クウォークだ！ これからきさまらは過酷な20週間の訓練に励んでもらうことになる。適性が見なされない場合には強制的に家に送り返すからそのつもりでいろわかったな！」と言った。FBIアカデミー訓練生30人は、「はい！」と言った。クウォーク長官は、「では最初にだ！ 心理交渉術を教える。テロ対策とスパイ工作と政府の汚職行為と強盗などのあらゆる事件現場は戦場だ！ 自分の身は自分で守れ！ やられたらやり返せ！ 自業自得の正当防衛だ！ けども話し合いで済むことであれば交渉次第で解決することもある。心理交渉術は不公平な分配型と平等な統合型がある。この統合型を目指してほしいので心理交渉術のスペシャリストになってもらいたい」と言った。クウォーク長官は、「ここまでで何か質問がある者はいるか？」と聞いた。訓練生の一人は、「やられたらやり返せと言いましたが、過剰防衛してもいいのですか？」と答えた。クウォーク長官は、「タダの喧嘩じゃない限り命を狙われた場合はやむをえないだろう」と答えた。スティーブンは、「交渉人となるときは制圧者の要求に応じなければならないのですか？」と聞いた。クウォーク長官は、「そう！ 実際には制圧者の要求どおりという訳にはいかない！ 誘き出すことだ」と答えた。クウォーク長官はスティーブんに、「生ま

れはどこだ？」と聞いた。スティーブンは、「カルフォルニア州の LA 郊外です」と答えた。クウォーク長官は、「スティーブン・ルノーと言ったが FBI の SWAT にリチャード・ルノーという者がいる。兄弟か親戚か何か？」と聞いた。スティーブンは、「従兄弟です」と答えた。クウォーク長官は、「どおりで顔が似てる」と言った。クウォーク長官は訓練生 30 人に、「話の続きに戻る。警察が手に負えない事件が起きたときと誘拐が 1 日を経過したときに我々が出動する。そして指圧者が交渉に応じない場合には突撃を開始する」と言って講義が夕方まで続いた。クウォーク長官は、「明日は筋力トレーニングに山でランニングに訓練施設で筋力トレーニングと射撃訓練だ！」と言って講義が終わった。FBI アカデミーの寮に戻ったスティーブンは、帰る途中でコンビニによって買った食べ物と飲み物を食らった後で、シャワー室にいて、シャワーを浴びて自分の部屋に戻ってしばらくしてベッドで沢山の本を読んでいると眠くなって眠りに就いた。朝起きたスティーブンは食パンを食べてミルクを飲んで訓練施設に向かった。訓練施設に着いたスティーブンは他の訓練生たちと一緒に山を走って登って行って、山道を走って下りて行って、元の場所に到着して訓練施設へ戻っていった。訓練施設に着いた訓練生たちの全員は、鉄棒にぶら下がっての筋力トレーニングを始めて、両足を後ろに絡んで懸垂 3 セット 10 回ずつして広背筋と上腕二頭筋と腹筋と体幹の筋肉を鍛えて慣れてきた者は重量ベストと重量ベルトを着用した。訓練生たちの全員は腕立て伏せと腹筋を 100 回ずつやってから射撃訓練に入り、建物の隙間と窓と扉から現れてくるギャングたちの看板をショットガンで撃つ訓練を 5 分間で一人ずつやらされた。訓練生たちの全員は射撃訓練が最後の一人が終わって FBI アカデミーの寮に戻っていった。クウォーク長官の厳しい訓練指導を受けていたお陰で訓練生たち 30 人中の 5 人が脱落した。訓練生たちの 25 人は同じことを毎日繰り返して、10 週間過ぎて訓練生たち 25 人中の 7 人が脱落した。訓練生たちの 18 人は山のランニングじゃなくて輸送機からパラシュートで降りる訓練と訓練施設で鉄棒を使った筋力トレーニングは、そのまま続けて射撃訓練が狙撃訓練に変えた。残った訓練生たちの全員は輸送機に乗って訓練施設で落下練習した通りに低空 300 メートルの上から一人ずつ飛び降りて背中に背負ったパラシュートを開いて地上に着陸していった。訓練施設で鉄棒にぶら下がっての筋力トレーニングを始めて、懸垂 3 セット 10 回ずつした後で腕立て伏せと腹筋 100 回ずつした後で狙撃訓練に入って 150 メートル先の 5 階建ての建物の屋上にある狙撃犯の看板を狙撃用ライフル銃の標的で見つけ出して撃つ訓練を 5 分で一人ずつやらされた。訓練生たちの 18 人は毎日の同じこと繰り返し 20 週間が経とうとしたときに訓練生たちの 18 人中 9 人が脱落した。訓練生たち 9 人は最終日に森林でサバイバルゲームすることになった。クウォーク長官は最終日まで残った訓練生たちの 9 人にサバイバルゲームを始める前に自己紹介をさせた。まず一人目はシャイで繊細なジョン・エドワーズと二人目はシシリアンで女好きなフランク・バトラーと 3 人目はおっちょこちょいで陽気なドナルド・ダニエルズと 4 人目は敏腕の狙撃者イーサン・モリスと 5 人目は黒人でダンスが好きなルーカス・ロングと 6 人目は正義感が強くて真面目なパトリック・エリオットと 7 人目は唯一の女性の訓練生で小柄なエミリー・シャーロットと 8 人目は韓国系でテコンドーが得意なトニー・チョイと 9 人目はマーシャルアーツが得意なスティーブンといった顔ぶれである。クウォーク長官は訓練生たち 9 人を自己紹介させた後で 5 体 5 に振り分けるの

ために足りないひとりをリーダーシップの取れる FBI アカデミー卒業生で優秀なアレックス・ウッドを女戦士のいる側につけた。驚いたスティーブンは、「あれがアレックス・ウッド！俺とまったく似てないぞ！」と呟いた。クウォーク長官はスティーブんとイーサンとドナルドとパトリックとルーカスの5人とアレックスとジョンとフランクとエミリーとトニーの5人に振り分けた。クウォーク長官は訓練生たちの9人に SWAT のユニホームと防弾チョッキと保護用メガネを支給した。SWAT のユニホームなどを受け取った訓練生たち9人は、訓練施設のロッカー室で SWAT ユニホームセットに着替えて森林の所定場所に集まった。クウォーク長官は訓練生たちの9人に標的付ライフル銃と人体に死傷のないライフル用ゴム弾10発を渡した。そしてクウォーク長官は赤チームの班長をパトリックにして、青チームの班長をアレックスにした。クウォーク長官は、「ゴム弾が当たった衝撃で失神して倒れたりその場で両手を挙げて堪忍したら負けだ」とルールを言い渡した。いよいよ訓練生たちの9人にサバイバルゲームを開始させた。訓練生たちの9人は赤チーム VS 青チームとで赤チームを南側へ青チームを北側へ森林を散らばした。パトリックはイーサンに、「この茂みの中で青チームを狙撃しろ！」と言った。スティーブんとドナルドに、「東側に回れ！」と言った。「ルーカスと俺は西側を回る」と言って二手に分かれた。アレックスは、「きっと赤チームは東側からも西側からも挟み撃ちに来るぞ！」と言ってジョンとフランクとエミリーとトニーを進ませた。イーサンは茂みに隠れて、前から人影が見えたのでライフル銃の標準を合わせてジョンの胸を撃った。ジョンが撃たれた衝撃で青チームは地面に伏せた。銃声を聞いたスティーブんとドナルドとパトリックとルーカスは分かれた地点へ進んいった。アレックスとフランクとエミリーとトニーは立ち上がると走って後退していった。イーサンは照準を合わせてフランクの背中を撃つと、フランクが気絶してずっこけて倒れた。パトリックとルーカスとスティーブんとドナルドはトニーとエミリーとアレックスたちとぶつかって赤チーム VS 青チームでお互いにライフル銃を向け合った。トニーは沈黙の中でパトリックの持ったライフル銃を蹴飛ばしてライフル銃でパトリックの腹を撃ったら、パトリックが気絶をして倒れた。気を取られた赤チームと青チームは、お互いが撃てずにライフル銃を下ろして、隙をみて散らばっていった。スティーブンはとんまな道化師のドナルドを連れて斜面を降り立ってルーカスが前を突っ走って、茂みに隠れてるイーサンの場所を横切って行って、イーサンは不安になって立ち上がって茂みから離れていった。エミリーは後から向かったルーカスに、「ライフル銃を捨て両手を挙げろ」と言った。エミリーはルーカスが振り向いてライフル銃で撃とうとした瞬間にルーカスの肩を撃ってルーカスは気絶して倒れた。アレックスは茂みに隠れて狙撃していたイーサンを裏を回って探し出した。アレックスは銃を構えてイーサンが来るのを先回りして、サイドからイーサンの足を撃って足を引きずって歩いてるイーサンの背中を撃つと、イーサンは気絶してうつむいて倒れた。スティーブんとドナルドはトニーとばったり出会って互いにライフル銃を向けようとしたが、ライフル銃を奪いあった。トニーを後ろから支えている間に自分のライフル銃を手放してスティーブンが両手でトニーのライフル銃を奪い取ろうとしたときにトニーが肘でドナルドの顔面を打って解き放してスティーブンの脇腹を蹴っていったが、スティーブンにライフル銃を奪われて腕を取られると、一本背負い投げで地面に投げられて、すぐ後ろから片羽絞（かたはじめ）の抑込技を受けた。トニーはスティー

ブンの顔を蹴って絞め技を解き放してスティーブンの腕を取って腕ひしぎ十字固の関節技をかけた。スティーブンはトニーの足を噛みついて解き放して、お互いが立ち上がってトニーが足技で前蹴りして後ろ蹴りして前回し蹴りして後ろ回し蹴りしてくるたびに防いでいたが、トニーの足の甲で腹を溝打ちされて倒れた。トニーはスティーブンを腹を抑えながら立ち上がって地面に落ちてるライフル銃で撃とうとしたときにドナルドに背後から背中を撃たれて気絶して倒れた。ドナルドに救われたスティーブンはアレックスとエミリーを追っていった。エミリーを見つけ出したスティーブンはエミリーに、「お嬢さん！ 意外と女らしいお尻してるのね！」と言って侮（あなど）ったエミリーの背中を撃ってエミリーが気絶して倒れた。木の側にいるドナルドを見つけ出したアレックスはドナルドに、「ライフル銃を捨て両手を挙げろ！ 両手を挙げないと撃つ！」と言って木の上に登って隠れていたスティーブンをアレックスの胸を撃ってアレックスは気絶して倒れた。スティーブんとドナルドは最後まで残って赤チームが勝利した。気絶して倒れていた訓練生たちは、目を覚まし始めて所定の場所に戻ってきた。アレックスが目覚めたスティーブんとドナルドは所定場所にアレックスを両脇で支えるようにして肩を組んだ。クウォーク長官は、「皆んな両手を挙げなかったのは勇敢で非常によかった！ 肝心なのは感が優れたりして知恵を使ったり協力しあうことだ！ 実践の場では役立てくれ！」と言って訓練を終了させた。訓練生9人は卒業式を終えてからいつも一緒に食事をしなかった訓練施設の食堂室でピザとドリンクをデリバリーで頼んで卒業パーティーをした。訓練生9人はそれぞれがアカデミーの寮に戻って毎日の訓練で鍛えた筋肉痛の体を癒した。

汚れた報酬と復讐の行方

アカデミー訓練生の9人はクウォーク長官に見込まれて無事に卒業して訓練施設からそれぞれの部署へ配属された。ジョンとフランクとエミリーとルーカスはFBI捜査官にパトリックとスティーブんとドナルドとイーサンとトニーはアレックスと同じSWAT特殊部隊に抜擢された。ジョンとフランクとエミリーとルーカスは3ヶ月間あらゆる犯罪学と護身術と法律と推理を学んだのちにFBIのエリート集団の刑事とサイバー対策部の下部組織の行動分析課(BAU)から始まることになった。スティーブんとドナルドとトニー

とイーサンは1ヶ月間あらゆる犯罪学と法律を学んだのちにS.W.A.Tに入隊してイーサンは狙撃のプロフェッショナルとしてS.W.A.T 特別狙撃隊に送られた。SWAT 特殊部隊はなんどもM4カービンのアサルト小銃と盾を持って、陸軍施設で捜索訓練した。世界銀行本部に強盗団が押し入って緊急事態発生した。ワシントンD.C.にある世界銀行の本部へとSWAT 特殊部隊が派遣された。強盗団は占拠した世界銀行の本部で世界銀行の職員たちを人質にして、髭のおじさんのお面を被って身を隠している。強盗団のリーダーは、モバイルフォンでインスタグラムのライブ配信を使ってローガン大統領に貧困な途上国の中国に巨額の融資を要求して世間を騒がした。中国に商業融資の低金利4パーセントと援助融資600億ドルを受けて経済は急成長して日本を抜いて世界で2位になったが、2014年に香港で中東呼吸器症候群（MARS）が大流行したために世界の国々に感染者が広がって、特にアメリカの感染者が多いことで発展のために援助資金を停めた。中国政府は中国の責任あると批評したローガン大統領にサウジアラビアの首都リヤドから香港に海外出張でやってきたロシア人がヒトコブラクダから感染したMARS コロナウィルスを持ち込んできたからでMARS コロナウィルス感染病を広めたのはサウジアラビアで中国じゃないとアメリカ政府に訴えた。ホワイトハウスにいるローガン大統領はTVニュースの緊急生中継で、「巨額の援助融資を支援してきたのに、香港からヨーロッパにアメリカに広まってアメリカでMARS コロナウィルス感染病が拡大したことは中国政府が対策を取らなかったためにあるので援助融資の要求は断る」と言った。SWAT 特殊部隊の隊長は強盗団のリーダーに、「この要求を応じることはできない！ 会議室のテレビニュースを見ろ！」と強盗団のリーダーのインスタグラムのライブ配信にメッセージを入れて交渉したが、交渉を無視したために世界銀行の本部に突入することにした。ローガン大統領の抗議するTVニュースを見た強盗団のリーダーは、「要求を応じないなら職員を一人ずつ殺していく」とインスタグラムのライブ中継で言った。警官隊に包囲された世界銀行の本部の入口の扉を破城槌（はじょうつい）で破壊して、アサルト小銃と盾を持ったSWAT 特殊部隊が突入し始めた。世界銀行の本部の向かい側ビル5階の部屋の窓を開けてSWAT 狙撃隊が待機した。ウッド隊長は無線機でSWAT 狙撃隊のイーサンに、「世界銀行の本部の中に強盗団が何人いて、人質の職員が何人いる？」と聞いた。イーサンはウッド隊長に、「会議室に強盗団5人いて、人質の職員30人はいる」と答えた。ウッド隊長は、「わかった！」と言って、「他の職員はうまく外へ逃げ出したようだな！」と言った。ウッド隊長はSWAT 部隊に、「会議室に強盗団が5人にいる。通路側に強盗団が何人かいるかも知れない。警戒しろ！」と言って会議室へ向かっていった。SWAT 部隊は非常階段まで通路を伝っていくと、強盗団の4人がショットガンでSWAT 部隊に撃ってきた。SWAT 部隊は強盗団の3人にアサルト小銃で撃って行って、物陰に隠れたSWAT 部隊のスティーブンが強盗団の4人に発煙手榴弾を投げて煙を巻き始めて強盗団の二人を撃って片付けたが、強盗団の一人は走って行って、非常階段を使って会議室がある3階まで上っていった。ウッド隊長はイーサンに、「すぐ会議室にいる強盗団の5人を撃つんだ！」と命じた。イーサンは、「了解しました」と言って、周りのSWAT 狙撃隊に伝達して合図をしたら、一斉に撃つことにした。SWAT 狙撃隊は人質の職員30人にショットガンに向けた強盗団の5人に狙撃銃の標準を合わせてイーサンの掛け声で一斉に狙撃銃で撃っていった。強盗団の5人のうちの3人が命中してイーサンの的を

はずした強盗団の一人を撃って命中したが、そのとき強盗団の一人が会議室に現れて気を惑わされて強盗団のリーダーを撃てなかった。強盗団のリーダーは職員の女性に会議室の窓のシャッターを下ろさせた。強盗団のリーダーと強盗団の一人は会議室で人質の職員30人にショットガンに向けて再び立てこもった。戸惑ってきたウッド隊長はBAUのエミリーにモバイルフォンを使って髭のおじさんのお面を被った強盗団の情報関連を聞いた。BAUのエミリーはウッド隊長に、「BAUのエミリーですが、強盗団は中国系で（巷）ちまたの銀行で強盗を繰り返してきた集団で中国政府と一切関係ない可哀なゴロツキね！ 恐らく2年半前にLA チャイナタウンで起きた過激派の一味と思われる」とモバイルフォンで情報を送った。会議室で強盗団のリーダーは人質の職員30人に、「おまえたちの中に支店長はいないのか？ 答えないとみんな撃っていくぞ！」と言った。人質の職員30人の中で誰も名乗り出ないでいると人質の職員の男性が強盗団のリーダーを後ろから押さえ付けたが人質の職員の男性は強盗団のリーダーに肘で顔を打たれて払われて撃たれて倒れた。人質の職員の男性が強盗団の一人を後ろから押さえようとしたが、人質の職員の男性は強盗団の一人にショットガンのグリップで頭を殴られて横たわった。静まり返った会議室で強盗団のリーダーは、「名乗り出てこないようなら犠牲者が増えることになる」と言って人質の職員29人から支店長が現れた。強盗団のリーダーは支店長に、「これはお会いできて光栄です！ 金庫室はどこにある？ 世界銀行の香港支店に融資600億ドルを今まで通りに送金しろ！」と言った。支店長は、「普通の銀行と違うから金庫室などない。私たちは途上国の貧困削減を開発支援してきた。国際開発協会（IDA）は中国に援助融資を支援し過ぎてる。ローガン大統領に背いて国際復興開発銀行（IBRD）に相談してみる。その代わり職員に手を出さないでくれ！」と言った。強盗団のリーダーは、「わかった！ もし嘘ついたら職員29人の命はない。今すぐIBRDに連絡しろ！」と言った。モバイルフォンを持ち出した支店長は、「騒動が起きたためにIBRDの支店長がいるかどうかやわからない」と言った。強盗団のリーダーは、「早く電話してここへ呼び出せ！」と言った。電話で呼び出した支店長はIBRDの支店長に、「私はIDAの支店長ですが、あなたは本部におられますか？」と聞いた。IBRDの支店長は、「IBRDの職員の皆と窓や非常出口から逃げ出してからそこにはいない」と答えた。IDAの支店長は、「私の部下29人の命がかかっている。今から本部の会議室に来てほしい」と聞いた。IBRDの職員は、「わかった！」と言ってやむ終えず本部へ向かった。何かを警戒した強盗団のリーダーは、ショットガンを床に捨てて、連射式ショットガンに切り替えた。強盗団のリーダーは人質の職員29人に、「おまえたち中で妙な真似をする者がいたら容赦なく撃っていくぞ！ わかったか！」と言って人質の職員29人に連射式ショットガンを向けた。IBRDの支店長は世界銀行本部にやってきて、世界銀行の本部の周りにはいるSWAT部隊を通り抜けていった。IBRDの支店長が世界銀行の本部の入り口に入ってきたときに情報を受けてトランシーバーでSWAT部隊に、「IBRDの支店長を通せ！」と許可したウッド隊長が現れた。ウッド隊長はIBRDの支店長に、「会議室に行く？ やつら援助融資を実施した後で、皆殺しをせずらかるだけです。私に名案があります。協力お願いします！」と言った。スティーブンとトニーはウッド隊長が考えた回り作戦のためにスーツを着てメガネを掛けてIBRDの職員に扮して、IBRDの支店長と会議室へ向かった。IBRDの支店長はスティーブンとトニーを連れて会議室に

入っていった。強盗団のリーダーはIBRDの支店長に銃を向けて、「その二人は誰だ？」と聞いた。IBRDの支店長は、「私の部下ですよ！ パソコンを使って色々とサポートしてくれます」と答えた。強盗団のリーダーは、「誰が部下まで連れてこいと頼んだ！」と言った後で、強盗団の一人に、「その二人の持ち物を確認しろ！」と言ってスティーブンとトニーのポケットに何かないか調べさせた。強盗団の一人は強盗団のリーダーに、「了解！」と言った後で、IBRDの支店長の付き人のスティーブンとトニーにパソコンで香港支店に融資600億ドルを送金させるように命じた。スティーブンはデータ保存されたSDカードを取り出してパソコンに差し込んだ。人質の職員の黒人男性はトニーに室内の床のショットガンがあることを目で合図した。パソコンの画面を見た強盗団のリーダーはスティーブンに、「なんだそれは？」と聞いた。スティーブンは、「YouTubeでよく見る猫ちゃん動画です」と答えた。強盗団のリーダーは、「ふざけやがって！」と言って連射式ショットガンをスティーブンに向けたときにスティーブンが強盗団のリーダーの連射式ショットガンを押さえて上に向けた。トニーは床のショットガンを拾って、強盗団の一人がショットガンでトニーを撃とうとしたときに、強盗団の一人のショットガンを蹴り飛ばして、強盗団の一人を撃って倒した。トニーは強盗団の一人が手放したショットガンを手にして、スティーブンと争ってる強盗団のリーダーにショットガンを向けた。強盗団のリーダーに振り払われたスティーブンは連射式ショットガンで撃たれようとしたときに、「待て！」と言ってトニーがショットガンで撃とうとして強盗団のリーダーは手を止めた。トニーは強盗団のリーダーに、「手に持った連射式ショットガンを床に下ろせ！」と言った。強盗団のリーダーは連射式ショットガンを床に投げ落とした。その間スティーブンは人質の職員30人を会議室から解放させた。大統領のお面をはずした強盗団のリーダーは、「やっぱりSWAT部隊か！ よくも俺を騙したな！ タダじゃすまない！」と言った。トニーは、「おまえはもう袋のネズミだ！」と言った。スティーブンは床にある連射式ショットガンを拾おうとしたときに強盗団のリーダーがトニーが向けた銃を蹴り飛ばして、トニーの横腹を蹴って、スティーブンの腹を蹴って床に投げ落とした連射式ショットガンを拾って、スティーブンとトニーに連射式ショットガンを向けたが、そのとき会議室に入ってきて、ショットガンで撃ってこようとしたSWAT部隊を片端に撃って行って、会議室から外へ出ていった。強盗団のリーダーは非常階段へ走っていった非常階段で屋上へ上がっていった屋上の扉をノブを撃って破錠して扉を開いて入った。強盗団のリーダーは屋上の物陰に隠れてモバイルフォンで仲間に電話してヘリの援護を頼んだ。SWAT部隊と警官隊は屋上に駆け付けると、強盗団のリーダーを見つけ出して、「銃を下ろして、速やかに出て来るのなら撃たない」と言った。屋上に援護のヘリがやってきて、ヘリからマシンガンでSWAT部隊を撃っていった。マシンガンの弾が切れてヘリが屋上ヘリポートマークに着地して、ヘリからショットガンを持った強盗団の3人が現れた。強盗団3人は強盗団のリーダーを見つけて強盗団のリーダーを援護しながらヘリに向かった。強盗団のリーダーと3人はヘリの近くにやってきて、アサルト小銃で撃ってくるSWAT部隊と撃ち合った。SWAT部隊に強盗団の2人が撃たれて、強盗団のリーダーを盾にした強盗団の一人が撃たれて倒れた。SWAT部隊と撃ち合いながらヘリに乗り込んで操縦士にヘリを発進させた。ヘリが離陸し始めたときに、世界銀行の向かい側のビルに待機しているイーサンが操縦士に標準を合わせた狙撃銃の弾が操縦士の頭に命

中した。強盗団のリーダーは連射ショットガンを捨ててヘリから10メートル下に飛び降りて脱出した。ヘリは回転しながら急降下して爆発した。スティーブンとトニーは立ち上がる強盗団のリーダーに銃を構えた。スティーブンは強盗団のリーダーに、「おまえは何者だ？ なんのためにそんな真似をしているんだ？」と聞いた。強盗団のリーダーは、「俺は2年半前に演説中のウィルソン州知事を暗殺しようとしたチャン・ウーの息子のムーヤン・ウーだ！ そして兄はエリート高校でカナダ留学生に拳銃乱射事件を起こして終身刑を食らったイーハン・ウーだ！ 悪いことしたとは故に警官に父と兄が重い刑に処された。最初から先祖のいる中国に援助融資が止まったからでない。一部の警官に復讐をしたかった！」と答えた。スティーブンはムーヤンに、「おまえの父と兄は中国人の誇りを傷つけられてしてしまった！ だけど警官隊はやむをえずに抑えなければならなかった！」と言った。ムーヤンは、「俺は何人も人を犠牲にしたのだから刑務所に行って処刑されるだけだ！」と言った。トニーは、「もう標的の的だ！ おまえは逃げられない」と言った。ムーヤンは、「俺はい行かない！」と言った。スティーブンは、「なら腕づくでも連れていく！」と言って銃を捨ててトニーも銃を捨てた。スティーブンはトニーに、「こいつは手強いぞ！ 油断するな！」と言って、マーシャルアーツでムーヤンにかかっていった。トニーもテコンドーでムーヤンにかかっていった。二人がかりで血迷うムーヤンは、仙鶴拳でスティーブンとトニーの攻撃を避けていったが、トニーはムーヤンに前蹴りして後ろ蹴りして前回し蹴りして後ろ回し蹴りしていった。ムーヤンの鶴の拳でかわされて、掴まれた足を肘で打たれて横たわった。スティーブンはムーヤンに左の肩を持たれて左の拳で腹を3回打って顔を打った。痛々しいムーヤンは鶴の形で片足で立ってハイキックしようとしたスティーブンの顔を蹴り上げて気絶させた。立ち上がったトニーはムーヤンに手技で打っていったが、かわされて足刀で蹴っていった。ムーヤンの腹を打って倒れかかったが、トニーは膝がついたムーヤンにトドメを刺そうと、踵落とししようとしたときに、舞鶴となったムーヤンが鶴の拳でトニーの踵落としを防いでトニーの身体を鶴の嘴（くちばし）の拳を右に左に突いていった。顔を連発で突いていった。振り飛ばして気絶させた。ムーヤンはスティーブンの銃を拾って、スティーブンに銃を向けて撃とうとした。目覚めたスティーブンはムーヤンに、「やめろ！ ムーヤン！ そんなことをしたら、その辺のゴロツキと同じになる。おまえは今までの銀行強盗で盗んだ金と警官殺し未遂について聞きたいことがある。復讐の念があってなら法廷に立って、裁判官と陪審員に無実を実証してみろ！ 濡れ衣を被ってくたばる気なのか！」と言った。ムーヤンは、「うるさい！ 口ほどにないまぬけたちだ！」と言って銃の引き金を引こうとしたときに、向かい側のビルに待機していたイーサンがムーヤンの頭に標準を合わせた狙撃銃で撃った1発の弾が頭に命中してムーヤンを倒した。ムーヤンはズボンのポケットからモバイルフォンが見えた。スティーブンはそのモバイルフォンを拾って見ると、時限爆弾らしきアプリにスタートボタンが押されてる。あと5分を切ってカウントしてることに気がついた。スティーブンは、「トニー！ 目を覚ませ！」と言ってトニーが目覚めた。スティーブンはトニーとSWAT部隊と警官隊に、「みんな逃げろー！ 銀行のどこかに時限爆弾を仕掛けられている。そこから離れるんだ！」と言ってみんなを避難させた。スティーブンとトニーとSWAT部隊と警官隊は非常階段を急いで下りていった。世界銀行の本部の入口から外に出た瞬間に会議室が大爆発した。スティーブン

とトニーと SWAT 部隊と警官隊は世界銀行本部から無事に外へ出ていった。SWAT 部隊と警官隊は負傷者が出たが、ヘルメットと防弾チョッキを着用したお陰で、ほとんど一命を遂げた。MARS コロナウィルス感染症はアメリカの次に韓国で流行って、オーストラリアの研究所でアルパカから抗体を採取した MARS コロナウィルスの撃退に効果のあるワクチンを開発して、アメリカと韓国に送られて大量のワクチンで感染者が減少した。

ローガン大統領の救出作戦

ワシントン D.C. の FBI の宿舎でリチャードは SWAT 隊員の仲間たちを自分の部屋に呼んで今年と去年の SWAT 異種格闘技大会トーナメントの様相を録画した DVD をプレイヤーに入れてテレビで見ている。毎年 4 月にアメリカ各州の警察と FBI から集まった SWAT の武術のエキスパートたちがアトランタ市ジョージア州立体育館で行われる腕試し競い合うトーナメントに賭けた予選でリチャードが出場権を得て今年のトーナメントに参加した。8 人の武術のエキスパートは 4 ブロックに別れて戦って、準決勝で 2 ブロックに別れて戦った。決勝でリチャードとロス市警リトルトーキョー SWAT の日系で合気道得意とするレオナルド・タケダと戦った。拳法と空手と柔道の東洋格闘技マーシャルアーツ（武芸）でリチャードはレオナルドの顔にパンチと蹴り技でキックをしたが、避けられたレオナルドに固技で腕を背中後ろに固められて顔面を蹴られた。ポイントを取られて危うしのリチャードは、レオナルドの顔に再びパンチして打てずにいたが、ハイキックでレオナルドの顔面を蹴った。ポイントが同点となったと気が抜けたリチャードは、気合を入れて顔に腹に右に左にパンチしたが、レオナルドに両腕を取られて合気道の四方投げで投げられて手刀打ちで腹を打たれて一本取られた。リチャードは残念がって SWAT 隊員の仲間たちに、「去年のトーナメントはロバートの約束したとおり勝ったんだ！」と言ってプレイヤーを再生した。リチャードは準決勝まで勝ち抜いていった決勝戦でデトロイト警察 SWAT の総合格闘技のロジャー・アンダーソンと戦った。ロジャーはリチャードに右からローキックと左からハイキックしていたが、腕で払われていて、リチャードを掴んで投げ技で投げて腕を取って関節技で迫ったがリチャードに両足で顔を掴まれて頭を殴られて解き放した。リチャードはロジャーが左に右にパンチしてきたが、腕で防いで右の拳で腹に強パンチして一本取れた。ロバートと

の約束を果たしたりチャードはSWAT 異種格闘技大会トーナメントの優勝トロフィーを博した。SWAT 隊員の仲間たちはリチャードの部屋から離れて各自の部屋へ戻っていった。スティーブンはまだリチャードと同じ宿舎どこの部屋にいるかわからないままで過ごした。10年前、韓国でバーが赤と青のくるくると回る床屋でロシアンマフィアでロシアのスラヴ民族のグリゴリー・サドルノフは中年男で理髪師のリ・ロイに、「短めに頼む」と頼んだ。リは、「かしこまりました」と言ってグリゴリーの髪を切っていた。髪を切り終えたりは、「お客さんは女が好きですか?」と聞いた。グリゴリーは、「もちろんだよ」と答えた。リは、「いい女のいる店を紹介しますよ!」と言った。グリゴリーは、「お願いします」と言った。リは、「畏まりました。後で詳しい情報を!」と言ってグリゴリーの髪を洗い始めた。髪を洗いながらリは、「お客さん! どんな女性が好みですか?」と聞いた。グリゴリーは、「グラマーな女がいい」と答えた。リはグリゴリー髪を洗い終わると、ドライヤーで乾かしてから整った後でグリゴリーにレジの精算時に風俗の行き先の解る地図を渡した。グリゴリーは風俗案内所のような床屋から外に出た。グリゴリーはりのいうとおりにハングル語で書かれた風俗の行き先の解る地図を見て、ソウル市のカンナムエリアを訪れて高級クラブの店に入っていった。グリゴリーはお店に入ると、案内人に接待されて四段に並んで座ってるランジェリを身につけたS級韓国女性のいる間に来て、ソファに腰をかけた。源氏名のキム・ミナを指名したグリゴリーはウイスキー水割りを飲みながらキムの準備次第でこっちに来るのを待っていたが、そのうちにキムがソファの隣に座ってきた。キムはグリゴリーに、「いらっしゃいませ! はじめましてキムです」と言った。グリゴリーは、「俺はスラヴ系ロシア人だがアメリカで移住している」と言った。キムは、「だったらアメリカ人ですか?」と聞いた。グリゴリーは、「そうだ! アメリカ国籍はない」と答えた。キムは、「どうして移住できたの?」と聞いた。グリゴリーは、「不法滞在してる。アメリカにいる友達(ダチ)のお陰で、作られた偽造パスポートをロシアのスラヴ民族の孤児院の俺宛に送ってきたんだよ! そのダチはロシアンマフィアで俺を隠れ家で保護してくれた。俺はスラヴ民族の孤児院を勝手に離れてアメリカへ渡って生きていく道がなかった俺が保護してもらう代わりにロシアンマフィアの組織に入った!」と答えた。キムは、「私も孤児院で育ったの! 危なかしい男は好き!」言った。グリゴリーは、「どこまで許される?」と聞いた。キムは、「本番まで大丈夫」と答えた。キムはグリゴリーを裏の個室に連れていった。グリゴリーはキムのラズベリー色のランジェリを脱がし始めてると胸の上辺りに不死鳥のタトゥーが見えた。グリゴリーは洋服を脱ごうとしたときに韓国警察が個室の扉を開けて人身売買の風営法違反のお店として摘発にやってきた。この店にはカンナムエリアの高級クラブのほとんどが買われた孤児の韓国少女ばかり集められていた。韓国警察は未成年者のいる店の案内人と客を検挙して、孤児の韓国少女らが保護された。グリゴリーは韓国警察に収容されて取調室で偽造パスポートがバレて身分を明かした。グリゴリーはロシアンマフィアのダチでヴィンセント・ウォーカーと連んでニューヨークに住むスミス家にピザ屋のデリバリーに扮して届け出に入り、ご主人を拳銃で撃って殺害して強盗に押し入り、奥さんと子供たちを撃って殺害した。グリゴリーとヴィンセントは貴金属と金具で叩いて破壊した金庫の中から10万ドルを奪って、車で逃走していった。ニューヨーク郊外にある寂(さび)れた街のオートリーシティに隠れ家を置いたグリゴリーとヴィ

ンセントは、FBIの国際捜査班にヴィンセントだけが住民に顔を知られていたためにグリゴリーはヴィンセントと分かれて隠れ家を離れて、身分を知られないうちに偽造パスポートで飛行機に乗って韓国へ逃亡して身を隠した。グリゴリーは韓国にまでやってきたFBIの国際捜査班によって凶悪犯たちが収容される監獄島のアルカトラズに護送された。グリゴリーはスミス家を殺害したときに使われた拳銃の弾がグリゴリーの持っていたトカレフ TT33の旧ソ連の軍用自動拳銃の弾と一致したためにヴィンセントと共犯者だったと捜査された。ヴィンセントの隠れ家を知ったFBIの国際捜査班は行方をくましましたヴィンセントが賑やかなクラブで女とダンスしているのを見て近づいていくと、ヴィンセントがクラブの外へ出て行って、車で逃走した。FBIの国際捜査班は車で追っかけて行って、ハイウェイをカーチェイスしてヴィンセントが乗った逃走車のタイヤに向けて拳銃の弾を放っていった。ヴィンセントの乗った逃走車はタイヤが破れて5回も横転した。ヴィンセントは運転席で頭から血塗（ちまみ）れになって倒れていた。ヴィンセントの持った銃の弾はスミス家強盗殺人事件の時の物と同じだった銃を共同で使ったと思えるグリゴリーの指紋があったからだった。グリゴリーは獄舎で終身刑を受けてたびたび囚人との間でいざこざが絶え間ない日々を過ごしていた。10年後、事故で意識不明だったヴィンセントは病院に送られて植物状態のまま10年経ったが、フランス人の研究者がある装置を脳部に埋め込んで迷走神経に電気を流し込む刺激療法を毎日のように行い続けて昏睡状態から意識を取り戻した。ヴィンセントは長い植物状態から回復して夜にグリゴリーのことを思い出して覚醒した。ヴィンセントは病院の研究室がセキュリティシステムで開けることができなかつたので誰かが来るまで待った。フランス人の研究者がIDカードをかざして研究室のドアを開いて中に入ってきた。フランス人の研究者はヴィンセントに、「話せるのか？ 手足を動かせるのか？」と尋ねた。ヴィンセントは、「あぁ！ 奇跡としか思えない」と言って、「なぜ俺を助けたんだ？」と聞いた。うなづくフランス人の研究者は、「私はあなたに脳科学の実験をさせてもらってたんだから感謝させてもらいたいところだ！」と答えた。ヴィンセントは、「俺はある男の情報が知りたくて、ここを出たい。出してくれ？」と聞いた。フランス人の研究者は、「それはできない！ あなたは殺人犯だから危険なので話もできて両手両足が動くようなら明日にでも警察に引き渡すつもりでいる」と答えた。ヴィンセントはフランス人の研究者を掴んで逃げようとする、フランス人の研究者の首を背後から両腕で絞めつけて、「命の恩人だと思ったが、それじゃ死んでたほうがマシだ！」と言ってフランス人の研究者の首を絞めて息の根を止めた。ヴィンセントは横たわったフランス人の研究者のドクターコートの内ポケットからIDカードを奪って、研究室のドアを開いて外へ出ていった。ヴィンセントは病棟の警備員に見つからぬようにして深夜の病院から抜け出していった。ヴィンセントはニューヨークダウンタウン病院の外科を出て来て、ワシントンスクエア公園に向かった。ワシントンスクエア公園に着いたヴィンセントは、公園にモバイルフォンで電話している壮年男が立っていたのを見て、ゴミ箱にあった空き瓶を拾って、後ろから空き瓶で壮年男の後頭部を殴って気絶させた。ヴィンセントは医療着を脱ぎ捨て、中年男が身につけていた服に着替えてモバイルフォンを奪った。ヴィンセントはモバイルフォンで電話をかけて応答したロシアンマフィアのドミトリーに、「俺だ！ 忘れたか！ ヴィンセントだ！ ワシントンスクエア公園にいる。迎えにきてくれないか？」と聞い

た。ドミトリーは、「これは驚いたな！生きていたのか！わかったぞ！ワシントンスクエア公園だな」と答えた。ワシントンスクエア公園に迎えにきたドミトリーは本物か目を疑いながらヴィンセントと車に乗せて夜景の綺麗なマンハッタンブリッジを渡って第12埠頭へ向かっていった。車の中でヴィンセントはドミトリーに、「グリゴリーは今どこでどうして生きてる？」と聞いた。ドミトリーは、「韓国でサツに見つかって、グリゴリーはアメリカから追ってきたFBIの国際捜査班にアルカトラズに護送された」と答えた。ヴィンセントは、「そうなのか！」と言った。ドミトリーが運転する車は第12埠頭に着いた。車から降りたヴィンセントとドミトリーはロシアンマフィアのボスのマルクがいるところまで歩いていった。ヴィンセントとドミトリーは埠頭にある倉庫に入って行って、ロシアンマフィアのアジトに着いた。そこで居合わせた顎に長い白髭で中年男のマルクはヴィンセントに、「ヴィンセントか！生きていたなんて不思議な奇跡が起こるもんだな！」と言った。ヴィンセントは、「俺は早死したくない。アルカトラズに囚われてるグリゴリーをなんとかして釈放してやりたいんだ！」と言った。マルクは、「そうだな！わしにいい考えがある。おまえはサツに追われる身だ！見つければグリゴリーと同じくアルカトラズに護送される」と言った。ヴィンセントは、「どんな考えがあるんだ？」と聞いた。マルクは、「おまえは偽造のプロだ！ヴィンセント・ウォーカーは死んだことになっている。本名ダニール・イリニフに戻すんだ！そうすれば身分を隠せる。そしてローガン大統領の暗殺計画を予告した引き換えにグリゴリーの釈放を要求すればいい」と答えた。ヴィンセントは、「そりゃいい考えだ！」と言った。ニューヨークダウンタウン病院にて、翌朝になって研究室でフランス人の研究者が首を締められて殺害されてることに気づいたのは看護婦がIDカードをかざして研究室のドアが開いたときだった。警察に通報した看護師は、やってきたニューヨーク市警殺人課のマテオ・ロペス刑事たちから事情を聞かれた。後からやってきたマテオの部下はマテオ刑事に、「昨日の深夜に中年男がワシントンスクエア公園で何者かに空き瓶で後頭部を殴られて服とモバイルフォンを奪われて周辺に医療着が投げてあったそうです！」と言った。マテオは、「やはり犯人はヴィンセントか！植物人間から蘇生して動き出したということか！」と言った。マテオ刑事は病院を離れて市庁舎を訪ねてヴィンセントについて調べたら8年前に死因は臓器不全で亡っていた。マテオ刑事は病院にヴィンセントの今までのカルテが存在しているのと、内部情報によれば確かに研究室で療養中と記されていたことを疑問に感じていた。マテオは奪われた壮年男のモバイルフォンのGPS機能を使って搜索して、夜景の綺麗な第12埠頭にたどり着いた。倉庫まで来たマテオ刑事は拳銃を片手に持って一人で乗り込んでいった。銃を持つマテオ刑事は倉庫から出てきたマルクに、「おい！ヴィンセントという男は来てないか？」と尋ねた。亡命したヴィンセントはマテオ刑事に、「銃を下ろせ！俺ならここにいる。ヴィンセントはいない！俺はダニールだ！」と言ってマテオ刑事の後頭部に銃口を突きつけた。銃を下ろしたマテオ刑事は、「おまえがヴィンセントか！俺を殺してもすぐに警察とFBI捜査官などがおまえらを追ってくるだろう！巧妙な偽造でヴィンセントはこの世から消えたのか？」と聞いた。マルクは、「ダニールは偽造屋だ！どんなこともパソコンとプリンタがあればすぐに偽造できるんだ！どうだ！わしらと手を組んで取引しないか？」と聞いた。マテオ刑事は、「嫌だ！おまえらなんかと手を組む気はない！」と答えた。マルクは、「それ

ならこれを見ろ！」と言ってマテオ刑事にタブレットの映像を見せた。映像はマテオ刑事の家庭に覆面を被ったドミトリーたちの3人が侵入してマテオ刑事の妻と子供3人を誘拐して両腕両足をガムテープで縛って口にガムテープを貼り付けてどこかに監禁した。マテオ刑事は、「なんで俺がくることがわかったんだ？」と聞いた。マルクは、「わしらは何人か汚職警官と提携してる！ サツの動きはすぐにわかる！ GPS 機能でここに来ることはわかっていた」と答えた。マテオ刑事は、「わかった！ 妻と子供たちには関係ない。そこから解放してやってくれ！」と言った。ダニールはマテオ刑事の後頭部から銃を下ろした。マルクは、「この件について口封じのために賄賂の4000ドルをやるから可愛いベイビーたちにも内密してもらおう」と言った。マテオ刑事は、「わかった！ 誰にも言わないと約束する！」と言った。マルクは、「もし約束を破ったときはおまえと可愛いベイビーたちの命はないと思え！」と言って、計画的にアジトの裏にある部屋の中に監禁されていたマテオ刑事の妻と子供たちをマテオ刑事のところに解放した。マテオ刑事は妻と子供たちを抱きしめて倉庫から外へ出ていった。ダニールは倉庫の外に出てイースト川側へ歩いて行って、壮年男から奪ったモバイルフォンをイースト川に投げ捨てた。マルクに拘ってしまったマテオ刑事は、車で妻と子供たちを家に送り返した。マテオ刑事は妻と子供たちに、「このことは誰にも言ったらダメだ！ パパと約束だ！」と言って車に乗って署へ戻っていった。ロシアンマフィアを牛耳るマルクは手下たちに、「まだサツにアジトはバレていない。明日の朝から計画を実行するぞ！」と言って、手下たちとウォッカを呑み比べて倒れ込むまで呑んだ。覆面を被ったマルクはローガン大統領に、「わしは北欧諸民族の種馬だ！ アルカトラズ島に服役してるグリゴリーを釈放させろ！ 明日までに釈放しなかったらあなたを暗殺を実行する」と言ってワシントン D.C. 周辺地域に電波法を無視したテレビで放送を流した。これを見たローガン大統領はホワイトハウスの片隅で冗談じゃない外交問題に困り果てた姿をニュースに取り上げられたが無視することにした。翌日にローガン大統領は身辺護衛のためにホワイトハウスへ SWAT 部隊の配慮を願った。宿舎から SWAT 部隊をホワイトハウスへ派遣して内部周辺をそれぞれが位置に着いた。SWAT 部隊は深夜0時過ぎて、いつどこで敵が現れるか警戒していた。ホワイトハウスに左右から荷台のあるトラック2台がやってきて、荷台から覆面を被った男たちが旧ソ連軍用 Kord 重機関銃で外で護衛している SWAT 部隊をうつ伏せで撃っていった。外で護衛している SWAT 部隊は先の尖った特殊な弾が防弾チョッキを貫通して倒れていった。覆面を被った男たちの30人は、ホワイトハウスの表の入口に乗り込んでいった。SWAT 部隊はアサルト小銃で旧ソ連製の PK 機関銃を持って乗り込んできた覆面を被った男たちの30人を撃っていった。SWAT 部隊は覆面を被った男たちの30人を壁に隠れては撃って行って、何人かを倒していったが、覆面を被った男たちの PK 機関銃で撃った特殊な弾が塀を貫通して、足や腕などに当たって動けなくなった者がいた。シークレットサービスはホワイトハウス司令塔1階にあるレッドルームで休んでいるローガン大統領を東棟の2階の隠れ部屋に避難させた。残った覆面を被った男たちの25人は司令塔と東棟と西棟に分かれて散らばった。SWAT 部隊は司令塔には一つしかない階段を上ってくる覆面を被った男たち9人をアサルト小銃で撃って行ってから、4人ほど倒れたが PK 機関銃で撃たれて行って、特殊な弾が防弾チョッキを貫通して何人か倒れた。SWAT 部隊は西棟に繋がる連絡通路を走ってきた覆面を被った男たち

8の人をアサルト小銃で撃っていった、シアタールームに入った4人を撃って倒して細かい部屋に隠れていった4人を撃って倒したが、PK 機関銃で撃たれていった、特殊な弾が防弾チョッキを貫通して3人ほど倒れた。SWAT 部隊は東棟に繋がった連絡通路を走ってきた覆面を被った男たちの8人をアサルト小銃で撃っていった、プールサイドで撃ってプールに落して一人を倒して東棟の2階へ通じる階段がなかったために行き止まりになって小部屋に隠れた7人を撃って倒したが、PK 機関銃で撃たれていった、特殊な弾が防弾チョッキを貫通し二人ほど倒れた。東棟の2階の隠れ部屋のある部屋でウッド隊長とスティーブンが護衛していた。スティーブンはウッド隊長に、「大統領を護衛するのはCIAだけじゃないですか？」と聞いた。ウッド隊長は、「CIAは世界中心だけどFBIは国内中心だ！」と言った。覆面を被った男たち5人は大統領が休んでるレッドルームとブルールームとイエロールームを探したが、見当たらずに司令塔から連絡通路を渡って東棟の2階までやってきた。ウッド隊長はSWAT 部隊に、「これはスポーツ大会じゃないんだ！命懸けで大統領を守って、全力を尽くせ！」と言って配置につかせた。覆面を被った男たちの5人のうちのマルクは、「この辺り何か怪しいよな！」と言って覆面を被った男たちの5人を止めた。残ったSWAT 部隊は、盾とアサルト小銃を持って覆面を被った男たちの5人を取り囲んだ。ウッド隊長は覆面を被った男たちの5人に、「機関銃を下ろして腹ばいになれ！」と言った。マルクは、「それは断る！ローガン大統領はわたらの忠告を怠ったからな！」と言って覆面を脱いだ。追い込まれた武装集団の5人はPK 機関銃でSWAT 部隊を撃ちかましていったから、散らばった。しばらく続いた銃撃戦でSWAT 部隊は武装集団の5人のうちの2人を撃って倒したが、PK 機関銃で撃たれていった、特殊な弾が防弾チョッキを貫通して、ほとんどが倒れた。隠れ部屋のある部屋に居座ってるウッド隊長とスティーブンだけが助かった。残った武装集団の3人が残った。ドミトリーはマルクとダニールに、「この壁の向こうに隠れ部屋がありそうだ！」と言ってPK 機関銃で撃ちかましていった、隠れ部屋の扉を開けて手榴弾を投げ込んだ。ヘルメットをはずしたウッド隊長とスティーブンは隠れ部屋から秘密の扉を開いて移ったところの非常階段でローガン大統領を連れて東棟の1階まで下りていった。マルクたちは隠れ部屋がある部屋の中に手榴弾を投げて爆破して侵入したが、ローガン大統領の姿はなかった。ウッド隊長はローガン大統領に、「大丈夫です！理不尽ないたずらだと思っていたものですから、こんな惨事になるとは思っていませんでした！」と言った。ローガン大統領は、「それにしても野暮な連中だ！今からでも応援要請を頼みます！」と言った。ウッド隊長は、「今からは時間が間に合いません！3対2は不利ですがやってみます！」と言って、東棟から走って連絡通路を渡って司令塔の出口から外へ出ていった。ウッド隊長とスティーブンはローガン大統領を安全な場所に避難させてマルクたちに立ち向かっていった。マルクたちのトラックを奪ったウッド隊長は、トラックを走らせて、外に出てきたマルクたちに突っ込んでいった。トラックの荷台に隠れていたスティーブンは、トラックを避けてうつ伏せ状態のマルクたちを立ち上がろうとしたとき、右側にいたマルクとドミトリーをアサルト小銃で撃っていった、倒した。左側にいたダニールは、スティーブンにPK 機関銃で撃っていったが、荷台に伏せたスティーブンを遣れなかった。ウッド隊長はトラックから降りてアサルト小銃でダニールを撃っていったのだが、どこかへ逃げていった。ウッド隊長とスティーブンは最後に護衛させ

て護送車でローガン大統領の暗殺を抑えた。ウッド隊長はスティーブンに、「今、逃げていったのはヴィンセントじゃなかったか？」と聞いた。スティーブンは、「わかりません！ あれがヴィンセントかも！ 今回は路頭に迷わされたから武器の準備と配慮を整えましょう！」と答えた。BAU のジョンは、ホワイトハウスに侵入した武装集団を調べたところでロシアンマフィアと判った。あの場を逃げた男はヴィンセント・ウォーカーと名前を変えていただけの本名がダニール・イリニフという者だったんだ。ダニールはボスのマルクとダチのドミトリーが遣られて激怒して周りがパニックになった。ダニールはマルクの代わりにボスとなって第12埠頭の倉庫にロシアンマフィアの手下の39人を集めてアルカトラズ島に囚われてるグリゴリーを脱獄させる陰謀を企てた。ダニールを率いるロシアンマフィアはカリフォルニア州サンフランシスコから離れたアルカトラズ島へ屋根付き荷台のあるトラック3台に乗り込んで向かっていった。ロシアンマフィアの40人はサンフランシスコに4日かけてたどり着いて、海峡の船乗り場まで行くと、客たちを降させて乗っ取った大型クルーザーに乗り込んで行って、反逆者のダニールが船長に向けたPK 機関銃で船長を脅してサンフランシスコ湾にあるアルカトラズ島に向かわせた。ワシントン D.C. の FBI 本部から宿舎にいる SWAT 部隊に非常事態出動に数名選ばれた。直ちに出勤した SWAT 部隊は輸送ヘリに乗って、アルカトラズ島へ向かっていった。アルカトラズ島に着いたロシアンマフィアの40人は、監獄島アルカトラズから護衛してるやってきた刑務官たちが機関銃で撃つてくると片っ端から撃つていった。アルカトラズ島に乗り込んだロシアンマフィアは連邦刑務所まで来て、ゲートがロックされた扉の高い連邦刑務所に入るに容易じゃなかった。ダニールは、「了解！ そろそろ約束の時間になる」と言ってダニールから賄賂を受け取っているロシア空軍パイロットのイヴァンを呼んでいた。遅れてきたイヴァンの操縦する米軍基地から奪ったカモフラージュの Mi-24 の攻撃ヘリコプターがアルカトラズ島の上空に現れた。イヴァンはロシアンマフィアを機関銃で撃つてる刑務官たちを機関砲で撃つていった。イヴァンは連邦刑務所のゲート前に降り立ってロケット弾を2発撃つてゲートを破壊した。ロシアンマフィアは連邦刑務所に侵入して行って、機関銃で撃つてくる刑務官を撃つていった。SWAT 部隊は6時間位でサンフランシスコ湾にたどり着いてアルカトラズ島にパラシュートで降り立った。イヴァンはヘルメットを被ってない SWAT 部隊に的を向けて機関砲を撃つていった。散らばっていった SWAT 部隊の一人は低空飛行中のイヴァンの操る Mi-24 攻撃ヘリにロケットランチャーでロケット弾を発射して撃破した。ロシアンマフィアはグリゴリーを探しに散らばっていった。SWAT 部隊は連邦刑務所に入って、それぞれが散らばっていった。グリゴリーを見つけたダニールは檻の中でオレンジ色の囚人服を着てる壮年となったグリゴリーに問いかけた。ダニールはグリゴリーに、「おい！ 久しぶりだな！ 俺のこと覚えているか？」と聞いた。グリゴリーは、「覚えてるさ！ ヴィンセントだろう！ 同じ穴のムジナだからな」と答えた。ダニールは、「そうだ！ 名前を元に戻した。今はダニールだ！ おい！ そこを離れろ！」と言って、PK 機関銃を檻の鍵穴に向けて撃つて破錠した。ダニールは檻の鉄格子の扉を開いてグリゴリーを連れて脱獄をはかった。SWAT 部隊はロシアンマフィアにアサルト小銃で撃つて、ロシアンマフィアは SWAT 部隊と PK 機関銃で撃ち合いを繰り返した。リチャードはロシアン相撲であるサンボの達人のヴィクトルとばったり遭遇してしまってアサルト小銃で撃と

うとしたときに、腕を取られてアサルト小銃を奪われて無防備となって気が混乱した。リチャードは体格いいヴィクトルにマーシャルアーツで立ち向かっていった。リチャードはヴィクトルにパンチやキックしていったが、首を持たれて持ち上げられて払い飛ばされた。リチャードは気合いを入れて立ち上がってパンチやキックしようとしていったが、腕を取られて背負い投げで投げられて立ち上がって、腕を取られて巴投げで投げられて鉄格子の檻にぶち当たって横たわった。本能が騒いだ囚人たちは、「やっちまえ！ここから出せ！」と喚いた。リチャードは立ち上がると、腕を取られないように払って左パンチに右パンチしてくるヴィクトルに左パンチに右パンチして行って、カウンターに入ってからストレートパンチで顔面を殴って回し蹴りして行って、ハイキックしてヴィクトルを倒した。リチャードは立ち上がると床に落ちたアサルト小銃を拾おうとしたときに、立ち上がったヴィクトルにPK 機関銃で背後から撃たれそうになったが、ヴィクトルの背にアサルト小銃で3発を撃ったスティーブンのお陰で、絶体絶命を助けた。リチャードはスティーブンに、「助かった！名はなんて言います？」と聞いた。スティーブンは、「アレックスです！」と答えた。リチャードは、「隊長ですか！」と言って分かれていった。ダニールはグリゴリーを連れて連邦刑務所の屋上に上がってきて、屋上に待機してるはずの攻撃ヘリコプターに乗って脱獄する予定だったが、計画どおりにいかなかった。屋上に駆け付けてきたウッド隊長はアサルト小銃を向けたダニールに、「動くな！PK 機関銃を捨て両手を挙げろ！」と言った。ダニールは後ろを振り返ってウッド隊長にPK 機関銃を撃っていった。ウッド隊長はすぐに伏せると、ドラム缶に隠れてアサルト小銃でダニールを撃っていった。後で駆け付けてきたSWAT 部隊はダニールとグリゴリーに狙いをいつけてアサルト小銃を向けた。ダニールはグリゴリーに、「よしっ！海へ飛び降りるぞ！」と言ってダニールとグリゴリーは一緒に海へ飛び降りていった。SWAT 部隊はアサルト小銃を海に向けてぶっ放していったが、ダニールとグリゴリーは水面に浮かび上がらなかった。屋上にやってきたロシアンマフィアの手下はSWAT 部隊にPK 機関銃で撃ってきたが、SWAT 部隊の特殊な弾を通さない防弾チョッキを着用していたおかげでアサルト小銃の弾を浴びて倒れていった。スティーブンは屋上から階段を下りてきたロシアンマフィアの手下をアサルト小銃で撃って行って、倒した。ダニールとグリゴリーは泳ぎ疲れてサンフランシスコの陸まで行けずに、サンフランシスコ湾の海の上で仰向けになって浮かんでいたところを漁師に助けられて、漁船に乗ることができた。漁師はグリゴリーに、「監獄島を脱出したか？」と聞いた。グリゴリーは、「大型クルーザーの上でハロウィーンパーティしてふざけてたら海に落ちてしまって！これは囚人のコスプレだ！」と答えた。漁師は、「そうか！」と言ってしばらくしてコヨーテ・ポイント・ヨット港でダニールとグリゴリーを降ろした。ダニールはグリゴリーをコヨーテ・ポイント保養地に身を隠してサン・マテオの街へ歩いて行って、ダニールの服を買ってきた。グリゴリーは服に着替えてダニールと一緒にニューヨークまで行くと、トラックを探しに向かった。ダニールとグリゴリーはニューヨークの方向へ向かったトラックを見つけてヒッチハイクしてニューヨークにたどり着いた。丸坊主のグリゴリーとダニールは街から歩いて行って、第12埠頭の倉庫に着いた。グリゴリーは無罪じゃなくて自由の身になった訳じゃないと知っていたから、どんな手段もにいとわないダニールについていくすべしかなかった。殺し屋のダニールは、汚いやり方でも思惑どお

りにいかなかったことに関してないがしろにした。大型クルーザーに乗った SWAT 部隊は、元海軍基地の跡地であるトレジャーアイランドまで行って、トレジャーアイランドから輸送ヘリに乗ってアンドルーズ空軍基地へ向かっていった。SWAT 部隊は輸送ヘリに乗って、アンドルーズ空軍基地にたどり着いた。SWAT 部隊は FBI 本部に戻って、武器を置いて装備をはずしてスワットユニホームを脱いでシャワーを浴びて私服に着替えて宿舎へ戻っていった。FBI 本部に残っていたスティーブンは部屋へ戻ろうとしたときにリチャードに、「父さん！間違えたーっ！リチャード！」と言った。リチャードは、「おい！ウッド隊長！」と言った。スティーブンは、「アルカトラズからグリゴリーが脱獄したことは悪い兆しがある」と言った。リチャードは、「危険が渦むく前に戒めましょう！」と言った。スティーブンは、「危険は待たない！秩序を持たず残忍な行為をしてきた連中ばかりだった！」と言った。リチャードは、「そうですね！俺は次で最後の任務となります。これまでの戦いで人生を歪められた！」と言った。スティーブンは、「俺のほうが年下なんだから、敬語はいいですよ！」と言った。リチャードは、「隊長なんですから！」と言って宿舎まで歩いていった。リチャードは、「隊長の部屋はどこですか？」と言った。スティーブンは、「俺はこの部屋ですよ！それじゃあ！」と言って部屋へ戻った。リチャードは、「俺の部屋 302 ですよ！覚えて置いてください！じゃあ今度、遊びにいくんで！」と言って部屋へ戻っていった。

迷える宇宙の扉から帰還

クリスマスイブ、復活したグリゴリーは第 1 2 埠頭の倉庫でときどき邪悪に満ちた顔を見せるダニールと共に身を隠していた。ダニールはグリゴリーに、「ホワイトハウスでローガン大統領暗殺を目論んだときにマルクとドミトリーはウッド隊長とスティーブんにやられたんだ！」と言った。グリゴリーは、「そうか！敵討ちするのか？」と聞いた。ダニールは、「そうだ！ウッド隊長とスティーブンをどこかに呼びよせて陰謀の罠にはめてやろう」と答えた。グリゴリーは、「どうやってやる？」と聞いた。ダニールは、「マテオ刑事を使ってだ！ウッド隊長とスティーブンの情報もマテオ刑事に聞き出した！」と答えた。ダニールは、「俺はスラヴ民族と言わせない。ロシアの英雄になることだ！」と言った。グリゴリーは、「そうだな！それに勝ることはない」と言った。宿舎に休ん

でるリチャードはいきなりモバイルフォンが鳴り出して電話をとった。マテオ刑事はリチャードに、「元気だった？ ウッド隊長とスティーブンを知っているか？」と聞いた。リチャードは、「ウッド隊長は知っている」と答えた。マテオ刑事は、「今からウッド隊長に第12埠頭の倉庫Bにきてもらうように伝えてくれないか？」と聞いた。リチャードは、「なぜウッド隊長を呼ぶんだ！」と言った。マテオ刑事は、「ウッド隊長は連邦刑務所でダニールとグリゴリーを海岸に追いやったんだろ！ その時の事情を聞きたい！」と言った。根絶したリチャードは、「わかった！」と言った。リチャードは電話を切って、こないだ知ったウッド隊長の部屋へ向かった。リチャードはスティーブンの部屋を訪ねてスティーブンと出会った。リチャードはスティーブンに、「ウッド隊長！ ニューヨーク警察のマテオ刑事から電話があって第12埠頭の倉庫Bに来てほしいそうです。どうやらロシアンマフィアのアジトが見つかったらしい」と言った。スティーブンは、「了解！ じゃあいつてくる」と言って、FBI本部から外に出て赤いドゥカティに乗って第12埠頭の倉庫Bへ向かっていった。マンハッタブリッジを渡ってるスティーブンは凶悪化していく摩天楼のニューヨークシティに薄暗い中で満月の光が見えた。スティーブンは満月の夜に犯罪が起きてる嫌な予感を感じた。アメリカ合衆国では3分に一度どこかで事件が起きていると思いつながらマンハッタブリッジを抜けていって、3時間45分をかけて第12埠頭にたどり着いた。スティーブンは赤いドゥカティを停めて倉庫Bへ向かった。倉庫Bの中に入ったスティーブンは、「マテオさん！」と呼んで真っ暗な倉庫内に置いてあった警棒ライトを付けて歩いていった。歩いた途中で後ろ姿のイスに座っている男を見たスティーブンは、「マテオさん！」と言って呼びかけた。すると、いきなり証明の明かりが付いてイスに座ってる男が頭から血を流して殴り殺されていることに気づいた。そのときにマテオ刑事と警官隊が現れた。マテオ刑事はスティーブンに、「ウッド！ おまえをエドガー議員の殺人容疑で逮捕する」と言った。血のついた警棒ライトを見て驚いたスティーブンは、「何も信じない！ 俺はスティーブんだ！」と言って警棒ライトを投げて倉庫の外へ逃げていった。スティーブンは慌てて出てきて、焦ってヘルメットをかけずに赤いドゥカティに乗って突っ走っていった。パトカーが追ってくる中でマンハッタブリッジを渡っていった。バイクを走らせるスティーブンはマンハッタブリッジを渡った途中でダニールの率いるロシアンマフィアの手下8人が車2台を止めて通行妨害して前方の道が塞がれていた。追い詰められたスティーブンは、赤いドカティを止めて後方からパトカーがやってきて、降りてきた警官隊に包囲された。スティーブンはロシアンマフィアと警官隊に板挟みされて赤いドゥカティから降りた。スティーブンはロシアンマフィアと警官隊に銃を向けられて追い込まれた。スティーブンはマテオ刑事に、「どうしてだ！ ロシアンマフィアがいるのに何も顔をして何者かが影で操ってるだろうな！」と言った。マテオ刑事は、「うるさい！ 無駄な抵抗はやめて潔く観念しろ！」と言った。マテオ刑事は、「よしっ！ ひっ捕らえろ！」と言った。絶対絶命のスティーブンはマンハッタブリッジの柵を越えてイースト川へ飛び降りた。危機一髪で助かったスティーブンは、イースト川を泳いでいった。ロシアンマフィアの手下はマテオ刑事に、「あいつ！ 飛び降りました！」と言った。マテオ刑事は、「ここから飛び降りた者はほとんど助からない」と言った。泳いで陸を目指したスティーブンは後方から水上警察の船がやってくるのが見えた。スティーブンは捕まったらおしまいだと思って泳ぎ切る

うとしたが、助けられなくなつて船のハシゴを持って登って行って、水上警察の船上に上げられた。スティーブンは水上警察に関して救護活動する沿岸警備隊であつて警官と海軍に関係していても逮捕する権限がないことを知っていた。沿岸警備員はスティーブんに、「大丈夫ですか？ マンハッタブリッジから人が落ちたとの通報があつて救護にきました」と聞いた。再起不能のスティーブンは、「大丈夫だ！ 足から落ちていったので水面に叩きつけられないでいた」と答えた。沿岸警備員は、「不幸な事があつて身を投げたか事故とかですか？」と聞いた。スティーブンは、「ロシアンマフィアと汚職警官に追われて飛び込んだ！」と答えた。難を逃れたスティーブンは、「俺はSWAT 隊員だ！」と言つてFBIのSWAT 隊員の金色のバッチを見せた。スティーブンは、「第1 2埠頭へいつてくれ！ それとモバイルフォンを貸してくれないか？」と聞いた。沿岸警備員は、「仕方ない！ あなたを信じます！」と答えた。沿岸警備員はスティーブんにモバイルフォンを渡した。モバイルフォンを手にしたスティーブンはウッド隊長に電話をかけて呼び出した。スティーブンはウッド隊長に、「エドガー議員が殺されていると知らずに、汚職警官から第1 2埠頭の倉庫Bに呼ばれてハメられました。汚職警官とロシアンマフィアが連んでいた。板挟みに追い込まれてマンハッタブリッジから飛び降りたところを沿岸警備隊に助けられました。黒幕が見えましたのでダニールたちのアジトと思える倉庫Cへ向かいます！ このままでは濡れ衣を着せられてバクられるでしょう！ 至急、応援を願う！」と言つて電話を切つて沿岸警備員にモバイルフォンを返した。リチャードはウッド隊長のことが気になつて、第1 2埠頭の倉庫Bの近くまで車で来た。何か心配になつたリチャードは、倉庫Bへ歩いていって、倉庫に入った。揺さぶるロシアンマフィアの手下8人と小賢しいマテオ刑事率いる官隊3人が倉庫Cに戻つてきた。リチャードは、「ウッド隊長！」と呼んで倉庫を歩いて進んでいくと、後ろ姿で座っている男が血塗れの頭に殺されたエドガー議員であるを知つて驚いた。倉庫Bから外に出たリチャードは倉庫Cから人の声が聞こえて倉庫Cに潜入して物陰に隠れた。倉庫Cの中に入ったリチャードは、「マテオじゃないか！ なんでここにいる」と呟いてマテオ刑事とロシアンマフィアの密会したやり取りを目撃した。ダニールはマテオ刑事に、「ウッド隊長は遣つたか？」と聞いた。マテオ刑事は、「やつマンハッタブリッジから飛び降りた」と答えた。ダニールは、「バカ野郎！ どこかで生きてるかも知れない。やつの指紋が付いた警棒ライトが証拠だ！ 抵抗して銃を向けてきたから撃つたと言えよよかつたんだ！」と言つた。緊迫した中でリチャードはこの密会したやり取りをタブレットで録画していた。リチャードはロシアンマフィアの一人に見つかつて頭に銃を突き付けられてタブレットを奪われた。ロシアンマフィアの一人はリチャードの頭に銃を突きつけたまま歩いていって、ダニールのところにまでに連れていった。ダニールはリチャードに、「ウッド隊長を追つてきたのか？ おまえもSWAT 部隊の一員かな？」と聞いた。リチャードは、「マテオに野暮用があつてきただけだ！」と答えた。ダニールは、「なんでタブレットで録画をしていた？」と聞いた。リチャードは、「倉庫Bでエドガー議員が殺されていた。てめいらがグルつて罪もない人をデマカセで滅亡に追いやってるんだ！」と答えた。ロシアンマフィアの一人はリチャードの後頭部をビール瓶で殴つて床に跪（ひざまず）けさせた。グリゴリーはロシアンマフィアの一人からタブレットを手にしてタブレットを鉄柱にぶつけて破壊したら、床に落として踏みつけた。グリゴリーはダニールに、「これで証

抛を隠滅した！」と言った。ダニールはマテオ刑事に、「マテオ！ こいつを撃て！」と言って銃を渡した。マテオ刑事は、「あんた気は確かか？ こいつは俺のダチで幼い頃から培ってきた親友だ！」と言った。ダニールは、「だからなんだ！ 真面目なのに可哀想に！」と言った。裏切りのマテオ刑事はリチャードの頭に銃を向けた。リチャードはマテオ刑事に、「なんでこんな腐ったハイエナたちと手を組んだ？」と聞いた。マテオ刑事は、「妻のローザと息子と娘を誘拐されて妻と子供たちを解放させる条件で仕方なく賄賂を取って契約した。侵害する嫌がらせの絶えない世の中だよ！ 起動が良くなったときに、何もかもに見捨てられたら冗談にすぎない」と答えた。リチャードは、「長い間ダチと思ってたが、もう親友じゃない。人生は転けるときたもんだ！ さっきのタブレットで録画したやり取りはもうすでにツイッターに流してる。真実は言い逃れない。ムショで反省して出所したら田舎にでも帰って農場で牛の世話でもしたらどうだ！」と言った。マテオ刑事は、「リチャード！ おまえは家柄も顔立ち良く裕福に育ち羨ましかった！ 幼い頃についてきてくれた女子のティナを、『一緒にいこう！』と言ってどこかへ連れていったことがあった！ すまん！ リチャードよ！ 今の俺に家族が大事なんだ！」と言ってリチャードの頭に向けた銃の引き金を引こうとした。脳裏に危険が過ぎるリチャードは、「やめろマテオ！ おまえは人間のクズと一緒にになりたいのか？」と聞いた。マテオ刑事は、「うるさい！」と言ってリチャードを撃とうとしたときにスティーブンはマテオ刑事に銃を向けて現れた。気を取られたマテオ刑事はリチャードを撃てなかった。ロシアンマフィアとスティーブンは物陰に隠れながら撃ち合いになった。リチャードとマテオ刑事を率いる警官3人は物陰に隠れた。途中からウッド隊長とレオナルドとトニーが駆け付けてきた。ロシアンマフィアはトカレフの銃でスティーブンはワルサー P38 の銃でウッド隊長はマグナム弾を使ったリボルバー銃でレオナルドはマグナム弾を使ったライフルでトニーはマグナム弾を使った自動銃で撃ち合った。スティーブンはもう一丁のワルサー P38 の銃を取り出して両手にダブルで撃って行って、リチャードのところに行き着いてリチャードにワルサー P38 の銃を渡した。リチャードはワルサー P38 の銃でマテオ刑事と警官3人はマグナム弾を使う銃で銃撃戦に参加していった。ロシアンマフィアの手下の7人を撃って倒したが、トニーは胸を撃たれて横たわった。ダニールとグリゴリーは倉庫 B へ逃げた。スティーブんとウッド隊長とレオナルドはダニールとグリゴリーを追っていった。グリゴリーはダニールが上衣を脱いでタンクトップになったときに胸の上辺りに不死鳥のタトゥーが見えた。グリゴリーはダニールに、「そのタトゥーはなんの記念のときのだ？」と聞いた。ダニールは、「マルクに買われた証のなんだ！ 女は売春をさせられて男は強盗などをさせられた！」と答えた。グリゴリーは蔑（さげす）むダニールに、「韓国的高级クラブでキムという風俗嬢にあった！ その女も同じ不死鳥のタトゥーが入っていた」と言った。ダニールは、「ああ！ あの女か！ 自由な身になったからって薬の中毒者じゃ行き場がないからか仕事がほしいのとわざわざアメリカまでやってきて、マルクを訪ねにきたが足が着く危険性があったんで俺が始末した」と言った。グリゴリーは、「なんだと殺したのか!気がしれない。あんたどこまで悪党なんだ！」と言ってダニールに銃を向けて恩を仇で返す真似をしたが、諦めて銃を下ろした。ダニールは、「どうせ生きる価値のないアバズレだ！ すべてマルクの命令で仕方なくしたんだ！ もういないが恨むんならマルクを恨め！」と言って分かれていった。

秀（ひい）でるスティーブンとウッド隊長は倉庫 B に入ってダニールを見つけた。ダニールはスティーブンに、「ウッド隊長はやっぱり生きていたか！ そんな猿芝居など通じない。おまえはスティーブンだろ？」と聞いた。スティーブンは、「そうだ！ 俺がスティーブンだ！」と答えた。ダニールは、「よくもマルクとドミトリーをやってくれた！」と言ってスティーブンを銃で撃とうとした。ウッド隊長はダニールに、「ウッド隊長はこっちなんだ！」と言ってダニールの持った銃を蹴り飛ばした。スティーブンは、「醜い豚め！」と言って銃でダニールの胸と腹に5発撃って頭に1発撃ってダニールを倒した。レオナルドは倉庫 B に入って銃弾の切れたライフルに補充をしようとしたときに、フィリピン武術カリストティックの使い手のマルコヴィチがカリストティックの二本を両手に持って現れた。レオナルドはライフルを投げ捨てカリストティックを振り回してるマルコヴィチに合気道で立ち向かっていった。レオナルドは左右に手刀打ちで攻撃していったが、マルコヴィチにカリストティックで横腹と背中を打たれて、気を取り直して集中力を高めた。マルコヴィチはカリストティックを振り回して、レオナルドを左右に攻撃しようとしたが、レオナルドに顔を3回蹴られて鉄槌打ちで打たれて入身投げで投げられて背中から床に落ちたときに、カリストティックを手放して立ち上がると四方投げで投げ上げられて柵にぶつかって倒れた柵の下敷きになった衝撃で倒れた。スティーブンとウッド隊長はグリゴリーが倉庫 B から外へ出て行って、コンテナの並んだ場所に入っていったのを見てコンテナの並んだ場所に警戒して追跡した。スティーブンとウッド隊長はグリゴリーを見つけた。グリゴリーはスティーブンとウッド隊長とコンテナの角に隠れて銃で撃ち合った。ウッド隊長はスティーブンに、「俺は反対から回り込む」と言って向かった。後ろから近づいたウッド隊長はグリゴリーに、「動くな！ 銃を捨て両手を挙げろ！」と言った。グリゴリーは速やかに銃を捨て両手を挙げた。スティーブンはグリゴリーに銃を向けたまま近づいていった。お手上げの慚愧（ざんき）なグリゴリーは近づいてきたスティーブンに、「俺はムシヨに戻りたくない！ 屈辱を帯びた穴倉生活だった」と言った。リチャードは、「そうか！ でも鉄格子が似合ってるぞ！」と言ってウッド隊長が手を下させて後ろから両腕に手錠をかけようとした。グリゴリーは、「あの時マルクと会わなければよかった！ またムシヨに戻る訳にいかない」と言ってスティーブンが持った銃を押さえてウッド隊長の腹を蹴って銃を右に向けたときにスティーブンの引き金を引いた銃弾がウッド隊長の肩をかすった。スティーブンはグリゴリーに抑えられた銃を空に向けて、何発か撃った弾切れの銃を奪われた。ウッド隊長は肩から血を流して横たわった。スティーブンに銃を向けたグリゴリーは、「ここに来るまでもち堪（こた）えたな！」と言ってスティーブンを撃とうとして引き金を引いたが、弾切れしていた。銃を投げ捨てたグリゴリーは、「この野郎！」と言ってスティーブンを蹴り飛ばした。グリゴリーはスティーブンの顔をパンチしようとしたが、スティーブンにかわされて胸をパンチされた。グリゴリーはスティーブンに回し蹴りして行って、スティーブンにかわされて肘で右足を打たれた。怒ったグリゴリーは右足を引きずりながらスティーブンの右足を痛めてない左足で5回ローキックして、顔をハイキックして、スティーブンが横たわった。スティーブンは立ち上がって、後ろから固技で首を絞められたグリゴリーの腹を2回パンチして顔をパンチしてグリゴリーを解き払った。スティーブンはグリゴリーの腕を取って固めて腹を何度もキックして行って、真正面から3回ハイキック

していった。鼻から血を流したグリゴリーはスティーブンにパンチしようとしたが、かわされて右足で腹を蹴られて倒れた。スティーブンはウッド隊長に、「大丈夫ですか？」と言ってウッド隊長を立ち上げて肩を組んだ。ウッド隊長は、「俺は大丈夫だ！ それよりトニーのほうが心配だ！」と言ってトニーのところへ向かった。リチャードはマテオ刑事と警官二人と撃ち合って警官二人を撃って倒した。銃弾が切れたマテオ刑事は、降参してリチャードのところに現れた。リチャードはマテオ刑事に銃を向けて、「なんで賄賂なんか取ったんだ！ そこが甘かった！」と言った。マテオ刑事は、「ちょうどお金に困ってるときだったから金が必要だったんだ！」と言った。リチャードは、「おまえは所詮サツの犬だから、骨の髄まで洗い流せ！」と言ってマテオ刑事を撃てずに銃を下ろした。リチャードはマテオ刑事を連行して倉庫Cから外に出て、パトカー3台のところに連れてきた。ニューヨーク市警の刑事課長はマテオ刑事に、「尻尾を巻いて出てきよったか！ なんで署の信用問題に欠けることをした？」と聞いた。マテオ刑事は、「自分は悪い訳じゃありません！ 悪いのはロシアンマフィアなんです！」と答えた。刑事課長は、「とぼけるな！」と言った。向こうからやってきた痛しげなグリゴリーは、「おい！ 待つんだマテオ！ おまえは俺たちと一緒に行くんだ！」と言ってトカレフの銃でマテオ刑事を3発撃って道連れにした。警官隊は最後の一撃でグリゴリーを5発撃ってグリゴリーを倒した。リチャードはマテオ刑事に、「おい！ しっかりしろ！」と言ってマテオ刑事を揺さぶった。マテオ刑事は、「おまえに人生最後は勝ちたかった！ 俺のほうが先に結婚できて家族を持ったから勝ったよ！」と言ってリチャードの腕に支えられながら息を引き取った。トニーのところに行ったスティーブンは、ウッド隊長と一緒に意識を確認したけどトニーが重体だった。SWAT用特殊ヘリにトニーを運んでから乗り込んだスティーブンはウッド隊長とレオナルドはクリスマスの夜景にクリスマスツリーの見える街を眺めてワシントンD.C.のSWAT本部まで向かっていった。リチャードは自分の車の近くでウッド隊長のヘルメットを拾ってトランクに入れて車でSWAT本部まで向かっていった。雪の降ったニューヨークのマンハッタンのクリスマスは泣いていた。3ヶ月後、ウッド隊長はすっかり権威を失う事態だったが、傷を癒して回復した。トニーは無事に蘇生して退院まで安静にした。レオナルドはSWAT本部に常駐していたが、ロス警察のリトルトーキョー署へと戻っていった。リチャードはスティーブンに、「ウッド隊長！ 第12埠頭にヘルメット忘れてましたよ！」と言ってヘルメットを渡した。スティーブンは、「ありがとう！ これで引退だ？」と聞いた。リチャードは、「そうですね！ 任期は10年でした！」と答えた。ニューヨーク市警からSWAT本部まで赤いドゥカティが戻ってきた。ロシアのゴルチャコ大統領はローガン大統領に今の外交問題について対談した。これでロシアンマフィアの陰謀工作はなんとか食い止めた。リチャードはニュース番組のレポーターで出会ったルーシーと交際して2年が経とうとしていた。ある日の夜の港でルーシーはリチャードに、「実は私に傷があるんです！」と言った。リチャードは、「え！ 盲腸の手術で縫い跡があるとか何か大きな病気にかかったことがあるとかの縫い傷か何か？」と聞いた。ルーシーは、「いえ！ 心の傷なんです！」と答えた。リチャードは、「なんだよ？」と聞いた。ルーシーは、「それは15歳の頃に初めて付き合った彼の家にいったら乱暴されて処女を奪われたこと」と答えた。リチャードは、「でも付き合った彼だったなら別によかったんじゃない？」と聞いた。ルーシーは、「初めの彼に身を許さなかつ

た！怖い！リチャードさん助けて！」と答えた。リチャードは、「大丈夫だ！俺がついている！結婚しよう？」と聞いた。ルーシーは、「はい！だけでもうひとつ怖い体験がある。SWATの危険が伴う仕事は辞めてほしい！裏切ったマテオさんのように家族が危機にさらされるような事があつたら人事じゃないなと思ったから！」と答えた。リチャードは、「わかった！SWATを辞めたらロス郊外に移住しよう！そして、俺はマーシャルアーツの道場を開く！」と言って港の公園のベンチで二人抱き合いながら結婚を誓いあった。3月27日にリチャードとルーシーはSWAT部隊の仲間を集めて教会で挙式した。スティーブンは外からその様子を眺めていた。エイプリルフールの日に引退をしたリチャードは宿舎でスティーブンとあった。リチャードはスティーブンに、「どうして挙式にきてくれなかったんですか？」と聞いた。スティーブンは、「仕事が入ったんでごめんなさい！」と答えた。リチャードは、「俺は今からロス郊外に移住してマーシャルアーツ道場を開くんです！」と言った。スティーブンは、「いいですね！」と言った。リチャードは、「引っ越しで忙しいんで！じゃあまた会える日を楽しみに！」と言った。スティーブンは、「それじゃあね！また会おう！幸運を祈ってる」と言った。リチャード別れたスティーブンは赤いドゥカティに乗ってエイムズ研究センターへ向かっていった。エイムズ研究センターに着いたスティーブンは、赤いドゥカティから降りて駐輪場に赤いドゥカティを置いてエイムズ研究センターに入って受付を通してギルバート博士を呼んでもらった。スティーブンはギルバート博士が受付にやってきて、望遠鏡のある天文台にエスコートしてもらった。ギルバート博士はスティーブンに、「この1年でリチャードに会えた？」と聞いた。スティーブンは、「会えて親しくなれた」と答えた。スティーブンは、「だけど父さんに会うためにSWAT部隊に入隊したけどなんども死に目があった！」と言った。ギルバート博士は、「それはこの世に生まれてくることなく、存在がなくなってしまうとこだった！」と言った。スティーブンは、「自分は未来に戻ります！それじゃあ！グッドラック！」と言って宇宙服を着てヘルメットを被って2035年4月3日の12時20分に設定した。ギルバート博士は、「グッドラック！未来の私にはよろしくいってくれ！」と言った。スティーブンは、「鍵を忘れた！」と言ってギルバート博士に鍵を投げ渡して時空転送の門をくぐっていった。1年で三次元装置の異変が起きて時空転送の門に変化が起きた。ギルバート博士がスティーブンを宇宙へ移すためにどこかで気づいたスイッチを切り換えたまま放置していた。三次元装置は三次元トライアングルから四次元スクエアに切り替わって、時空をさまよい二つの小さい銀河同士が衝突して光まで飲み込む大きなブラックホールが出来た。スティーブンはボール状のカプセルに入ると、体がちぎれるような思いをして、大きなブラックホールに吸い込まれていった。別の離れた一点に直結した異次元空間に入ってトンネルのような抜け道を抜けていった。異次元空間から落ちたスティーブンは、カプセルから出て時空転送の門をくぐり抜けた場所がどこかの惑星だった。スティーブンはこれは時空転送の門じゃなくて、スペースステーションゲート（宇宙の扉）をくぐり抜けてきたんだなと思った。スティーブンのところにひよろ長いパピュラス星人の二人がやってきた。パピュラス星人の一人はスティーブンに、「おまえは地球人か！」と言ってスティーブンにレーザー光線銃を向けた。ここがパピュラス星だと気がついたスティーブンは、「そうだけどステーションゲートをくぐったらなぜかここにやってきた」と言った。レーザー光線銃

を下ろしたパピュラス星人の二人はスティーブンを捕らえて宮殿まで連れていった。パピュラス星人の二人が宮殿に連れてきたスティーブンをグード王の場所まで連行して、パピュラス星人二人が戦闘モードのトカゲのような顔を解除して人間のような顔になった。太ってる人間のような顔したグード王はスティーブンに、「ようこそ！ パピュラス星に何が目的でやってきたのか？」と聞いた。スティーブンは、「地球にパピュラス星人の妹がいる。妹は背の高さと爬虫類のトカゲのような肌が治って地球では早く年をとらない葉があれば欲しいと願って星を目指した」と答えた。グード王は、「ほおっ！ 海王星に水晶のクリスタルがある。それを肌にすり当てるだけでたちまち地球人らしくなるはずだ」と言った。スティーブンは、「どうしたら、その星に行ける？」と尋ねた。グード王はパピュラス星人の一人に、「地球にパピュラス星人の妹がいるのだ！ この地球人を海王星まで宇宙船に乗せて行ってやれ！」と言った。パピュラス星人の一人は、「わかりました」と言って、一緒に宮殿から外に出てスティーブンを宇宙船に連れていった。パピュラス星人の一人はスティーブンを宇宙船まで連れてきて、宇宙船にスティーブンを乗せて離陸していった。スティーブンは宇宙船の中で窓の外を眺めていた。スティーブンは、「いつか膨張を続けている宇宙は太陽が地球と他の惑星を飲み込んで行って、50億年後に最後のブラックホールが消滅したら闇だけ支配する空間と素粒子だけ残る。その頃まで幸いに我々は生きていない。ビックバンが起きて再び宇宙の始まり新たな生命が生まれて生物が潜んでるかわからない」と思った。宇宙船はぎりぎりに太陽系へ入ってきたら黒い物質で少し途切れた6本のリングがある第八惑星の海王星へ向かっていった。宇宙船はダークマター（暗黒物質）を避けていったら、氷の惑星の青い海王星に直陸した。スティーブンはパピュラス星人と一緒に宇宙船から出てマイナス220度の極寒で防寒モードボタンを押して宇宙服の中を暖めて強い磁波のあるダイヤモンドの平原を歩いていった。磁波があることからオーロラを見ることがあって、太陽から遙か遠くを回っている惑星だけに極寒で風速400メートルの風が吹くこともあるガス惑星で時速2400キロの嵐が起こりうる時があるために急いでクリスタルを探しにいかねばならなかった。海王星から地球まで43億5千キロ離れていて、地球より4倍も大きくて大気が水素80パーセントでヘリウム19パーセントで少しメタンで出来ていて、海王星が青く写る理由はメタンが大きく関わってる。海王星は1日が16日ぐらいで四季がすべて極寒である。海王星は水があって、メタンが分解された炭素を水に加えたら金属化する。トリトンという衛星が海王星の反対方向で回ってる。スティーブンはダイヤモンドの雹が降り出して、急いで金属化した一部が氷山に繋がった道歩いて行って、ダイヤモンド海に浮かんだ氷山に登っていった場所でダイヤモンドよりも六角柱状の自然の作り出した結晶体で美しい輝きを放ったクリスタルを見つけ出した。スティーブンは手のひらサイズのクリスタルを手にとって硬くて衝撃に強くて傷つかないし息をかけたも曇らないクリスタルを特殊合成された袋に入れた。スティーブンとパピュラス星人は氷山を降りたところの金属化した道で宇宙盗賊団の横太いペルサイナ星人と遭遇した。ペルサイナ星人はスティーブンに、「そのクリスタルはペルサイナ星の大事なエネルギー物質となる資源なんだ！ それを渡すんだ！」と言ってスティーブンに冷凍銃を向けた。パピュラス星人は戦闘モードでトカゲのような顔になって、レーザー光線銃でペルサイナ星人を攻撃していった。ペルサイナ星人は戦闘モードでカエルのような顔に

なって、冷凍銃でパピュラス星人を攻撃していった。ペルサイナ星人はパピュラス星人とスティーブンが逃げていくところを氷というよりもダイヤモンドで出来た平原を冷凍銃で破壊していった。パピュラス星人とスティーブンは金属化した岩に隠れたが、隣でパピュラス星人が冷凍銃の攻撃を受けて金属化した岩が溶けていくまでに冷凍銃の攻撃を受けてないところの金属化した岩の隅からペルサイナ星人のところにプラズマ手榴弾を投げて爆発して、ペルサイナ星人は横たわった。冷凍銃の攻撃を防いだパピュラス星人は、立ち上がったペルサイナ星人をレーザー光線銃で撃って行って、倒した。パピュラス星人とスティーブンは時速2400キロで嵐の竜巻が近づいているのが見えると、急いで宇宙船に向かった。パピュラス星人とスティーブンは宇宙船に乗り込んで離陸して、嵐に飲み込まれていった。宇宙船は嵐をものともしないで海王星から離れていった。スティーブンは温暖モードを解除して、宇宙船の窓を眺めながら今の技術で地球から太陽系の外へ行くことが到底不可能とされてると思った。宇宙船は小惑星（コスモ）をより抜けて行って、パピュラス星にたどり着いた。スティーブンはパピュラス星人と一緒に宮殿に行って、グード王と会った。スティーブンはグード王に、「クリスタルを得ることができました。ありがとう」と言った。グード王は、「いつか地球が太陽系の外へ行ける日がきたらいいな」と言った。宮殿の外に出たパピュラス星人とスティーブンは、時空転送の門の場所まで行った。スティーブンはパピュラス星人に、「助けてくれてありがとう！」と言って時空転送の門をくぐろうとして立ち止まった。スティーブンは、「地球で元の世界に戻るつもりだったけど、パピュラス星にやってきた。どうすれば地球に戻れる？」と聞いた。パピュラス星人は三次元装置のスイッチを切り換えて三次元装置が四次元スクエアから三次元トライアングルに切り替わると戦闘モードのトカゲのような顔から人間のような顔に戻った。パピュラス星人は、「誰かに三次元装置のスイッチが切り換えられていたからだ！」と言った。スティーブンは、「そうか！ ギルバートさんが仕組んでいたのか！ 今度こそ地球に戻るよ！ それじゃあ！」と言った。パピュラス星人は、「あと違う国にいったときは、このボタンで行きたい国の頭文字を設定するんだ！」と言った。スティーブンは、「わかった！」と言って時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐって、楽園の泉と呼ばれている宇宙（軌道）エレベーターの静止軌道ステーションにいることに気づいた。引っ張り強さがあるカーボンナノチューブのケーブルを日本の NEC が開発して宇宙に架ける橋として活躍した。地球と同じ速度で周ってるからとまってるように見えるので静止衛星と呼ぶ。静止衛星からインド洋スリランカのソロモン島の地上に向けてケーブルを垂らして吊り下げたぶんが地球側の下のほうが重力に引かれて重くなって落ちる危険があるために反対側にもケーブルを伸ばしてバランスをとって、地上に向けたケーブルを更に伸ばして反対側も伸ばしてを繰り返していくと、やがてケーブルが地上に到達して地上と宇宙を一本で結ぶ長大のケーブルが出来た。昇降機を取り付けて人や物を輸送できる宇宙エレベーターが完成していた。宇宙エレベーターは地球の重力の下へ引っ張られる力と遠心力で上に飛び出そうとする力が一致して静止軌道の高度を維持して周り続ける。宇宙エレベーターは上からカウンター重りと高軌道ステーションとクライマーと火星ステーションと静止軌道ステーションと低軌道ステーションとクライマーと地上ターミナルとなっている。スティーブンは、「パピュラス星に行けるスペースステーションゲートとして誰かが設置

した」と言って、三次元装置にアメリカ（亜米利加）の米国の（米）に切り換えて、時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐってきて、宇宙エレベーターに着いて、1年の時を過ぎていたけど今度こそエイムズ研究センターにたどり着いた。スティーブンはヘルメットはずして宇宙服を脱いでギルバート博士のいる天文台の隅にある研究所に行った。研究所にいるギルバート博士はスティーブんに、「スティーブンくん！ 無事に戻ってこれたのか！ 君の生まれる前の過去の世界どうだったかね？」と聞いた。スティーブンは、「若き父さんに会うためにSWATに入隊してからが悲惨なことばかりで、この世に存在がなくなるとこだった！ でも若き父さんに会えたよ！」と答えた。ギルバート博士は、「若きお父さんに会えてどうだったよ？」と聞いた。スティーブンは、「勇敢でたくましかった！ ウッド隊長を偽った身がバレず親しくなれた！」と答えた。スティーブンは、「宇宙にも行けたよ！ 三次元と四次元の切り換えスイッチのことは知っていたんじゃないですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「だから若かれし私に会ったら、『ワームホールは実在すると伝えてほしい』と言っといたんだ！ 若かれし私はスイッチに気づくことはわかっていた。先に宇宙に行っていたら、1年も時空を越えて設定の年号日時に行けなかっただろう」と答えた。NASAの宿舎に戻ったスティーブンは食事を食べた後でシャワーを浴びてベットに横たわってゆっくり体を癒して休んだ。翌朝に目覚めたスティーブンは目玉焼きとベーコンとハッシュドポテトを食べて100パーセントオレンジジュースを飲んで部屋から外に出てタクシーに乗ってワシントンダレス国際空港へ向かっていった。空港に着いたスティーブンは、ワシントンダレス国際空港からロサンゼルス国際空港まで飛んでいった。空港に着いたスティーブンは、車で迎えに来ていたリチャードと会って車に乗ってロス郊外にある実家へ歩いていった。車でリチャードはスティーブんに、「無事に戻れて良かった！ 過去のわしはどうだった？」と聞いた。スティーブンは、「ワイルドハントだったよ！ SWAT部隊に入隊して父さんに会うことができた」と答えた。リチャードは、「ロシアンマフィアのアルカトラズ島から脱獄計画を抑えるために動いたSWAT部隊のチームに選ばれたのか？」と聞いた。スティーブンは、「選ばれてアルカトラズ島へ向かった！ 訓練のときから出会っていたウッド隊長は俺と似てなかった！ ウッド隊長のお陰で色々と命拾いをしたけどね！」と答えた。リチャードは、「わしのときは違う隊長で入れ替わりが多くウッド隊長のことをよく覚えていないまままでいたからな！ ウッド隊長は俺の命を救ってくれたけどもしかしてあれウッド隊長を偽ったスティーブンだったのか？」と聞いた。スティーブンは、「そうだよ！ 本当のウッド隊長は俺よりもっと背が高くてインテリだよ！」と答えた。リチャードは、「あ！ あの人だったのか！」と言った。スティーブンは、「それと、パピュラス星なんかの宇宙に行けた」と言った。リチャードは、「そうか！ それはいい大冒険だった！」と言った。リチャードとスティーブンが乗った車はLA郊外の実家に着いた。リチャードとスティーブンは車から降りて家に入っていった。夕食の準備のできた食卓でリチャードとルーシーとスティーブンとキャメロンは、4人が揃って話をしながら食事した。キャメロンはスティーブんに、「スティーブン兄さん！ あれ！ 葉のお土産は？」と言った。スティーブンは、「あるさ！ こないだ俺と同じぐらい成長してたから俺より年をとってほしくないと思って頑張ったよ！ 海王星の氷山でクリスタルを採ってきた。これ以上は成長しないでトカゲのような肌が治って人間と同じように年

をとっていく薬だからな！」と言って特殊合成された袋から光輝いたクリスタルを取り出してキャメロンに手に渡した。キャメロンは、「ありがとう！海王星に行けたなんてすごいな！どうやって行けたの？」と聞いた。スティーブンは、「時空転送の門からパピュラス星に行き着くことができパピュラス星人の協力あって海王星にたどり着いた」と答えた。ニュースで見たスティーブンはドローン技術をヒントに開発された空飛ぶ車に乗ってタイムズスクエア広間に降り立ったクローン人間（レプリカント）のスティーブ・ジョブズが現れた。スティーブの脳に埋めていたICチップですべてデータを復元することができた。人々の居座るスタンドの前で新しいiPhone21とナノテクノロジーとサイコテクノロジーについてスピーチをした。スティーブのクローンなんて神の冒涇に背く行為にすぎないとニューヨークタイムズの新聞に載った。ルノー家は夜にシャワー浴びてみんな寝就いたときにキャメロンだけ部屋で不思議な体験をした。キャメロンの部屋に現れたゼジルはキャメロンに、「ピューナ！私はどこかに生きている。いつか必ず会いに行くから」と言って姿を消した。カリフォルニア州でHRE感染者が増えずに収まっていたのは、ジークバスターズがHRE感染者に火炎放射器を放っていったお陰でもあった。HREウィルスのほうがMARSコロナウィルスよりも地球外物質で得体の知れないものだ。危険がつきまるとして支配された街にHREウィルスを持った黒いライダースーツを着て黒いヘルメット被ったライダーが起爆装置を設置してモバイルフォンでボタンを一つ押して爆発させていった。HREウィルスが入った試験管5本を注射器に入れ替えて病院の患者5人に打っていった。病院の外に出たブラックライダーはバイクに乗って走っていったが、パトカーに追い詰められて警官がバイクのタイヤを銃で撃っていった、タイヤがパンクしてバイクが転倒してブラックライダーが投げ出された。立ち上がってきたブラックライダーは、軽傷で警官に取り押さえられた。捕らわれたブラックライダーはHREウィルスを撃退するワクチンの研究をしているHREウィルス研究所を狙ってHREウィルスを盗み出し起爆していったと供述して裁判で判決（ジャッジ）で裁かれた。病院から街まで繁殖して狂うHRE感染者が拡散していった。群がるHREはLA郊外までやってこようとしていた。民衆は息もつかせずに呼吸してるだけで危ないときがあると避難を余儀なくされた。海王星に移住ができるとしたらテラフォーメーションしないと不可能である。時空転送の門は太陽系の外へなら誰でも行くことができるスペースステーションゲートの三次元装置を四次元スクエアに切り換えてスリラカのソロモン島にある宇宙エレベーターに移動していった。- END -

Wild Hunt New Era 2 Beyond Space-time

著 八島 聖彦

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
